

第281号

平成15年度 第1号

親潮

北水同窓会

平成15年8月15日

親潮 (第281号)

目 次

お願い

- 会費納入のお願い
- 「会員名簿」への広告のお願い
- 「親潮」への広告のお願い

ご挨拶

- 退官に当つての挨拶とお礼 小城 春雄 (44ゾ) ... 1
- 定年退官のご挨拶 菅野 泰次 (39ゾ) ... 2
- 定年のご挨拶 岡 重美 (特) ... 2

本部だより

- 第83回定期総会報告 3
- 第83回定期大会を終えて 幹事長 中尾 繁 (40ゾ) ... 12

会員の受賞

- 山崎文雄氏 (33ゾ) 平成14年度日本水産学会賞功績賞受賞 荒井 克俊 (51ゾ) ... 13
- 荒井克俊氏 (51ゾ) 平成14年度日本水産学会賞進歩賞受賞 山羽 悅郎 (55ゾ) ... 13
- 尾島孝男氏 (54化) 平成14年度日本水産学会賞進歩賞受賞 西田 清義 (38セ) ... 14
- 山下成治氏 (54ギ) 平成14年度日本水産学会賞田内賞受賞 飯田 浩二 (51ギ) ... 14
- 高津哲也氏 (63ギ) 平成14年度日本水産学会賞奨励賞受賞 高橋 豊美 (44エ) ... 15
- 佐々木君男氏 (36セ) 平成14年度 (社) 大日本水産会水産功績者表彰 鈴木 賢一 (36セ) ... 15

寄稿

- 3／4世紀を生きて 生田 博司 (23セ) ... 16
- 北水バドミントン部の活動 小辻 一幸 (学生会員) ... 19

支部・会員だより

- 埼玉県支部総会と懇親会報告 白井 純二 (48食) ... 19
- 八紘会関東地区会の集い 添田 恒 (17ヨ) ... 20
- 鹿児島支部懇談会 江幡 恵吾 (平8ギ) ... 20
- 47期 [32年卒] 同期会・積丹半島 山井 喬志 (32ゾ) ... 21
- 北水二五会2003年の集い 廣崎 芳次 (25ゾ) ... 22
- 魚紋会開催報告 坂井 英世 (26ゾ) ... 22
- 第22回七洋会の集い 山井 年男 (16後ギ) ... 24
- 高水ラグビー部 激闘喜楽会青森大会 川越 正行 (24エ) ... 24
- 齊藤教授をお迎えして 茨城県支部同窓会開催 渡辺 一夫 (47ゾ) ... 25

追悼

- 海軍最後の切札特攻機晴嵐の機長 徳永信男君 (17ギ) 逝く 窪田 光信 (17ギ) ... 26
- 昭和22年卒38期田中正良君の訃報について 菊池 良兵 (22ギ) ... 27
- 谷口定利兄 (23ゾ) の急逝を悼む 久保 達郎 (16後ヨ) ... 28
- 会員死亡通知 28

ご案内

- 宮原九一 (14ギ) ・アン マクドナルド共著「海幸無限」 小林 大助 (18ヨ) ... 29
- 安田 徹 (37ゾ) 編 「海のUFOクラゲ 発生・生態・対策」 志賀 直信 (44ゾ) ... 30

学内ニュース

- 学位取得者と論文題目 30
- 会員異動 32
- 平成14年度進路状況一覧 33
- 有朋自遠方来不亦樂乎 36
- 表紙写真説明 37
- 編集後記 38
- 投稿規定 38

同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

同窓会誌「親潮」への広告を募集しております。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募も歓迎しております。同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位による広告主の開拓を切にお願いいたします。広告は隨時受け付けており、広告料は親潮1年分について、以下のようになっております。

表紙裏面または裏表紙の両面

1頁 80,000円
1/2頁 40,000円

普通頁

1頁 60,000円
1/2頁 30,000円
1/3頁 20,000円

北水同窓会のホームページを開設しました

平成15年度から、北海道大学水産学部同窓会のインターネットホームページを開設いたしました。

ホームページに接続して初めて表示されます画面を右に掲載いたしました。北水同窓会ホームページへのアクセスは、お手持ちのインターネット接続しているコンピューターから、<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>と入力ください。

同窓会本部では、同窓会会員の皆様に、リアルタイムな情報の提供ができますよう、ホームページ運営を心がけてまいります。ご意見、ご感想、をくださいますよう、よろしくお願いいたします。



会費納入のお願い

会員の方から会費納入の促進、簡便化、節約の有意義な提案を頂きました。幹事会で検討し、以下のように対応することと致しました。今後とも、会員の皆様の御提案お待ちいたしております。

- 1) 自動払いの促進：数年前から導入しておりますが、あまり認知されていないようです。改めて申し込み用紙を同封いたしましたので、皆様の積極的な利用を期待いたします。
- 2) 領収書の廃止：これまで、全会費納入者に領収書を送付しておりましたが、郵便局からの会費納入振込み用紙に新たに「領収書の要」欄を設け、チェックを入れた方のみに送付することといたしました。
- 3) 会費納入状況の通知：親潮送付の宛名の下方に「会費納入お願いします」旨の字句を復活させることと致しました。
- 4) 銀行口座へのカードでの振込み：予算的に可能かどうか検討することと致しました。

同窓生をつなぐ絆 平成15年度版「会員名簿」発行します

この秋に1年おきに発行しています同窓会会員名簿が発行されます。この名簿は同窓生とのネットワーク作りに欠かせないもので、**今年度の会費を納入された会員には無料で配布することになります**。同窓会本部では印刷部数を把握し、後日部数に過不足のないように配慮したいと考えておりますので、どうぞ会員の皆様におかれましては、**早目に会費4,000円を納入してください**。郵便振替用紙は本号末尾に綴じてありますのでご利用下さい。併せて自動払込みもご利用下さい。

なお、現在会員の勤務先、役職、住所、電話番号、FAX番号等の訂正を行っております。転勤などの住所変更等ありましたら9月末日までに、下記連絡先まで郵便、電話、FAX、電子メール（インターネット）等でお知らせ下さい。官庁、会社、団体等会員の多い所ではご面倒でも一括ご通知いただければ幸いです。

住所変更等の連絡先

〒041-8611 函館市港町3-1-1
北海道大学水産学部北水同窓会
電話 0138-42-3681
FAX 0138-42-3681
電子メール alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp

同窓会名簿へのE-mailアドレスの掲載について

インターネットや携帯電話の普及により通信手段としてのE-mail利用が一般化された感があります。そこで、本年度発行する同窓会名簿からE-mail（電子メール）アドレスの掲載を開始いたします。E-mailアドレス掲載希望の方は同窓会事務局までお知らせ下さい。掲載できるアドレスはインターネットのE-mailアドレス、および、携帯電話メールアドレスのどちらか1つを選択して下さい。よろしくお願いします。

新会員名簿への広告のお願い

本年11月末に平成15年度版会員名簿が発行されます。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募を歓迎しておりますので、同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位には広告主の開拓にお力添えをお願いいたします。なお、広告料は以下のようになっております。

広告申し込み締切日は9月16日です。

普通頁

1 頁	35,000円
1/2 頁	20,000円
1/3 頁	15,000円

— ◆ ご 挨 拶 ◆ —

退官に当つての挨拶とお礼

小城 春雄 (44ゾ)



北の生物に憧れて北大水産類に入学して以来、学部、大学院、学振研究員、そして教官となり、思い返せば、唯々、走り抜いたとの感がします。4年目におしょろ丸による北洋航海に乗船し、北の海の一見人を寄せ付けない荒々しさとは裏腹に、海中では驚くべきダイナミックさで生物生産の営みが強烈に進行しているのには、身震いする様な感動を覚えました。結局、今振り返って見ると、この感動が、その後定年になるまで私の研究に対する意欲の源泉になっていたように感じます。

研究のテーマは、当時北洋水産研究施設、漁業部門に大学院がはじめて設置され、ここの一二期生となりました。当時の教官の陣容は、辻田時美教授、三島清吉助教授、西山恒夫助手、島崎健二助手でした。私は西山先生の指導でブリストル湾のベニザケ幼魚の研究に従事することになりました。おしょろ丸の北洋航海には合計6回乗船することになりました。ところが、米国の大統領ケネディーが暗殺され、その弟のロバート司法長官も暗殺されるに到り、ブリストル湾でのベニザケ幼魚研究の続行が不可能となってしまいました。毎年頼っていた、米国の調査船の予算が一気に削られてしまつたからです。

その後は外洋性海鳥類の生態研究に、研究テーマを変えました。自らフィールドへ出なければ標本が集まらないので、平成2年のオホーツク海でのキャッチャーボートによる鯨類調査に同行し、海鳥類の分布調査を行った時まで、20年間毎年北洋に出向くことになりました。乗船時間を合計すると4~5年間となりました。でも、まだ北洋へ

行きたい気持ちは、体力の衰えとは関係なく心の隅に疼いています。

時代の流れと共に北洋水産研究施設は解体され、一つの講座に吸収されてしまいました。今まででは大学院生だけでしたのに、急に学生が来る様になり大学院教育ばかりでなく、学部生の教育にも心を碎かねばならない羽目に陥りました。そこで定年までの5年間は、毎年学生やら院生を引き連れて、利尻島でのウミネコ繁殖地に赴き、2ヶ月間、繁殖生態を研究指導するようになりました。どういう訳か、女子学生が多く集まる様になり、時代の趨勢を感じずにはいられませんでした。

学部学生から大学院生時代までは、まだ遠洋漁業全盛の時代で、日本漁船が世界の隅々まで、水産物を求めて活躍する時代でした。その後、各国の水産資源に対する規制が厳しくなり、国際漁業は規制される様になり、ついに200海里法が各国で採択され、1977年に到ると国際漁業は一気に潰される事態となりました。乱獲の時代から、資源管理の時代へと移行しました。海の資源は無限ではなく、有限である、との考えが当たり前の時代となりました。最近は、海洋の水産資源の変動が、レジームシフトといわれる、地球規模の気象変動により影響を受けているという、厄介な問題まで明らかにされ、人間の海洋資源への対応も判断材料が増しています。1990年には公海域での流し網漁業の禁止が国連決議で決定しました。

海を生態系として捉え、その中での人間の取り分を科学的な見地から判断して行く難しい時代となっています。沿岸域での増養殖漁業といつても限界があります。日本沿岸域では、これまでの乱獲で何処でも資源不足となり、沿岸漁業は年々衰退しています。まず、身近な海面の利用基準から生態系概念を取り入れて改善して行く以外に道はないと思います。

これからの海の利用では、新しいものの考え方、将来を見越し、かつ国際的に認められる施策が必要になってきています。将来の水産業を発展させるいわば基盤作りがこれからの時代を担う若い人達の双肩に大きくのしかかっています。新生水产学の発展を、祈念しつつ、これまでに皆様から頂

いた御好意と御理解に対しまして厚く御礼申し上げます。

定年退官のご挨拶

菅野 泰次 (39ゾ)



私は昭和39年に北大水産学部を卒業し、昭和50年に北海道水産試験場から北大水産学部に戻って、当時の漁業学科の助手になりました。

大学において私は、魚類の個体群生態に関する研究、とくに系統群と呼ばれる小単位集団の研究を行いました。研究の端緒は私の20代に遡ります。当時、網走水産試験場に勤務していた私は、能取湖に行ってみて驚きました。そこには極めて特殊な型のニシンが生活していたのです。一般にニシンは、4歳から5歳で成熟した親魚となり、生まれた日本海の産卵場に戻って、繁殖するといわれていました。しかし、能取湖のニシンは、湖内で、しかも2歳の非常に小さな体サイズで繁殖する、特殊なニシン（湖沼ニシン）だったのです。研究を進めるにつれ、湖沼ニシンは特殊なニシンではなく、青森県尾駒湖、サハリンの富内湖などにも棲息する小型の寿命の短いニシンで、太平洋ニシンの起源となったものではないかと考えられました。このようなことから、私の研究は、系統群の地理的分布の問題から、系統群の分岐形成機構の問題へと興味を広げることになりました。

私が着任した当時の講座は、「資源生物学講座」と呼ばれました。着任後2度の組織改革を経て、現在の研究室は「資源生産生態学講座資源動態学分野」となりました。この研究室は、数学モデルによって生態現象を解明することを目的とする、本学部に従来欠けていた研究の補完を目指しています。私は、この数理研究室への橋渡しの役割を担うことになりました。力不足で皆様にご迷惑を

お掛けすることが多かったと思いますが、研究室の将来に対して私は大きな期待をもっております。長い大学生活を通じて、私を支えて下さった教職員の皆様、並びに多くの同窓の皆様に心からお礼を申し上げて、退任のご挨拶といたします。

定年のご挨拶

岡 重美 (特)



昭和43年、当時の北大獣医学部から、助手として水産学部食品化学第2講座に採用され、この度、3月31日付けをもちまして定年退職いたしました。

当初は何もわからず、いろいろとまどいもありましたが、これまで、諸先生方ははじめ同窓生各位、学生の皆様方から多くの助けをいただき、お陰様で35年間の職務を全うすることができました。記してここにお礼を申し上げます。

私にとって水産学部で退職を迎えることになろうとは予想だにしておりませんでしたので、正直いってほつとしている反面、今も何か奇遇に感じることさえあります。

水産学部ではまさに一からの出発になりましたが、その分すべてが新鮮に思えました。以後、水産学部・水産科学研究科と共に歩むことになりましたが、折りに触れ、水産学が自然を対象にした身近で重要な学問であることを知った時から、親しみと興味を持つことが出来ました。また今日までのこれらの集積が私の知的財産として残すことも出来ました。今後はこれを何らかの形で社会に還元出来ればと考えております。

情緒豊かで、風光明媚なここ函館の地で、多くの友人、知人にも恵まれ、今まで、自由に研究・教育に専念出来たことは、ひとえに諸先生方や同窓生各位のご指導、ご理解によるものであり、一方で学生の方々との日々の触れあいが、終始私の

心の支えとなり、またこれらを遂行する上で大きな原動力ともなりました。このような環境下でこれまで過ごさせていただけたことに改めて感謝するとともに、自分にとって有り難い人生であったことを今しみじみ実感しております。

研究・教育のあり方はもとより、体制そのものが大きく変化しつつある中で、大学は今まで目前に法人化という大きな転機を迎えるようとしております。伝統ある我が北大水産学部・水産科学研究科が時代の荒波に呑まれることなく、今後も引き続き水産界の牽引者として大いに躍進されんことを心から期待しております。

最後に、同窓生各位のご健勝と一層のご活躍を願うとともに、水産学部・水産科学研究科の更なる発展を祈念し、定年のご挨拶といたします。

— ◆ 本 部 だ よ り ◆ — 第83回定期総会報告

北水同窓会第83回定期総会は、平成15年5月16日（金）に、札幌市で京王プラザホテル札幌を会場にして、午後6時より開かれた札幌支部定期総会の後、328名におよぶ会員の出席を得て盛大に開催された。

先ず、東京支部、大阪支部、函館支部からの祝電披露の後、議長に和泉博邦氏（37ゾ）を選出し議事にはいった。



横山 清副会長兼札幌支部長（35工）による開会の挨拶



北大交響楽団弦楽四重奏の演奏披露

議案第1号平成14年度事業経過報告および会計決算報告について、中尾 繁幹事長（40ゾ）から一般経過報告の後、本部幹事による各議案の説明があり、これらが一括して承認された。

次に、議案第2号について、平成15年度役員改選案と次回の第84回定期総会開催地を東京とする提案があり、これが承認された。これにより次回開催地は正式に東京に決定した。続いて、平成15年度予算案について各幹事より説明・提案があり、承認された。

最後に、本会を代表して石瀬和正会長（22エ）の挨拶があり、続いて山内皓平名誉会長（44ゾ）から大学院重点化以降の大学をめぐる状況、大学院水産科学研究科の将来の方向、水産学部近況につき説明・報告があった。さらに、猪上徳雄本部理事（41セ）からは平成19年の水産学部創期100周年記念事業計画案について説明・報告があった。



一番若い会員の秋田真澄氏（平14生）の音頭による万歳三唱

午後7時より開催された懇親会は、札幌支部幹事長武内良雄氏（49ゾ）の開会の辞で始まった。横山 清副会長兼札幌支部長（35エ）による開会の挨拶があった（写真1）。また、中尾 繁幹事長（40ゾ）からの挨拶に続いて、札幌副支部長島中貞夫氏（32ギ）の乾杯の音頭で懇親会が始まった。

会は全体が会員同士の会話で大きく盛り上がり、楽しくかけがえのないひとときが流れた。途中では北大交響楽団弦楽四重奏の演奏披露（写真2）があり、福引き大会などもありさらに盛り上がった。最後に、寮歌齊唱があり、逍遙歌、水産放浪歌に続き、横山 清札幌支部長（35エ）の前口上で、都ぞ弥生を全員で齊唱した。参加者の中で一番若い会員の秋田真澄氏（平14生）の音頭による万歳三唱で終宴となった（写真3）。会員への総会案内や会場の準備に多大なご尽力をいただいた札幌支部長の横山 清氏（35エ）、同支部幹事長の武内良雄氏（49ゾ）をはじめとする支部幹事の方々、総会に参加された会員の皆様方に心より感謝申し上げ、総会の報告といたします。

文責 齊藤誠一（庶務部幹事）

出席者 328名（卒業年順 敬称略）

成田 幸雄（14ギ）	寺坂 登（23セ）
土屋 栄治（16セ）	湯佐 利夫（23セ）
山田 正（16ヨ）	小島 伊織（23セ）
矢嶋 宏治（17セ）	内藤 政治（23セ）
石田己之助（19セ）	臼田 正臣（23セ）
森 有意（19セ）	山崎 善種（23セ）
大石 圭一（19セ）	吉田 俊一（23ゾ）
土屋 光三（19ギ）	所司榮四郎（24エ）
神子 誠一（20セ）	中川 禮次（24ギ）
石瀬 和正（22ギ）	倉 健藏（24ギ）
小山 進（22セ）	湊 敦雄（24セ）
東井 泰造（23ギ）	北林 浩（24セ）
井上 専治（23ギ）	佐藤 裕（24セ）
松本 昌也（23ギ）	森脇 淳（24セ）
服部 晴夫（23ギ）	直江 光昭（24セ）
湯田坂幸夫（23ギ）	工藤 善美（24セ）
高田 信夫（23ギ）	阿部 真次（25セ）

岸本不二夫（25ヨ）	高野 和則（32ゾ）
岩間 壽郎（26エ）	萩口 幸男（32ゾ）
神山 茂世（26エ）	山井 喬志（32ゾ）
前田 辰昭（26エ）	石田 信正（32ゾ）
田村 昭吾（26ギ）	工藤 純夫（32セ）
佐藤 弘邦（26セ）	島崎 健二（33エ）
伊勢 良一（26セ）	武内 弘（33エ）
国枝 寛也（26ゾ）	佐野 康一（33エ）
渡辺 秀男（26ゾ）	小林 國美（33エ）
丸山 明（26ゾ）	前田 良也（33エ）
内海 威彦（28ギ）	安孫子勇治（33ギ）
菅原 三郎（28ギ）	泉 敏博（33ギ）
納代 正信（28セ）	佐藤 京介（33セ）
白野 仁（28ゾ）	川村 一廣（33ゾ）
山下 正徳（28ゾ）	横山 清（35エ）
笠井 藤義（29エ）	横山 文男（35エ）
田中 満穂（29ギ）	成田 一憲（35セ）
伊藤 一（29ギ）	平野 亮一（35セ）
小山 光（29セ）	高間 浩蔵（35セ）
岡川 伸（29セ）	山田 稔（35セ）
長沢 有晃（29ゾ）	岡部 隆義（35ゾ）
小田嶋隆一（29ギ）	横山 久子（35ゾ）
小林 勇（30ギ）	吉崎 獻（35ゾ）
原田 昭（30ギ）	近藤 幸治（35エ）
松倉金次郎（30ギ）	吉田 康夫（36エ）
小西 亮（30セ）	下村 正彦（36ギ）
藤田 和幸（30セ）	武田 泰明（36ギ）
望月 英明（30セ）	安住 悅郎（36セ）
倉島 博人（30ゾ）	宇田川悦哉（36セ）
小林 教幸（30ゾ）	川村 巍（36セ）
羽田野六男（31セ）	坂井 弘司（36セ）
竹田 正之（31セ）	佐藤 正勝（36セ）
中野 司朗（32エ）	小野 昭雄（36セ）
杉田 哲夫（32エ）	鈴木 賢一（36セ）
武藤 瑛（32エ）	深谷 獻（36セ）
勝田 順介（32エ）	漆崎 碩雄（36ゾ）
島中 貞夫（32ギ）	小田 章博（36ゾ）
小橋 保智（32ギ）	松井 彪（36ゾ）
小田 利勝（32ギ）	高田 健伍（36ギ）
川村 康司（32セ）	澤井 佳保（37エ）
今井 煉（32ゾ）	平野 泰司（37エ）

田畠 善行 (37才)	谷口 和弘 (42才)	相山 忠男 (46食)	藤島 浩晃 (52才)
三浦 一世 (37才)	石井 清士 (42才)	石田 俊三 (46食)	伊沢 敏穂 (52才)
河谷 暢也 (37才)	笠岡 康二 (42才)	佐々木 徹 (46食)	小出 展久 (52才)
川向 国正 (37才)	高田 義夫 (42才)	保原 和男 (46才)	益塚 芳雄 (52才)
高田 栄市 (37才)	杉本 忠司 (42才)	水上 等 (46才)	内山謙士郎 (52食)
熊谷 昌士 (37才)	多田 治夫 (43化)	伊藤 俊輔 (46才)	出倉 正孝 (52才)
中田 邦雄 (37才)	手倉 真一 (43化)	柴坂 貞夫 (47化)	吉川 正基 (52才)
阿部 晃治 (37才)	斎藤 熱 (43食)	岩崎徳太郎 (47食)	土倉 宏一 (53化)
和泉 博邦 (37才)	大畑 邦彦 (43才)	及川 利幸 (47才)	吉田 靖宏 (53化)
大長 記興 (37才)	阿部 勝郎 (43才)	長沼 昭夫 (47才)	永田 光博 (53才)
西川 信良 (37才)	今井 肇 (43才)	吉田 正雄 (47才)	横山 純 (53化)
丸山 雄 (37才)	足立昌次朗 (44化)	古川 寛道 (47才)	嶋川 篤明 (54才)
河野 忠義 (38才)	小泉 正彦 (44化)	長尾 学 (47才)	大野 主康 (54才)
今井 善之 (38才)	山森 節子 (44化)	田中 賢二 (47才)	土谷 政志 (54才)
真田 俊一 (38才)	高橋 英明 (44食)	三井 正次 (48化)	広瀬 学 (54食)
大久保征二 (39才)	渡辺 弘美 (44食)	清水 実 (48才)	池浦 仁 (54才)
草刈 宗晴 (39才)	佐々木 達 (44才)	達本 文人 (48才)	片岡 郁夫 (55化)
田中 寿雄 (39才)	下村 成昭 (44才)	吉原美智世 (48才)	斎藤 二郎 (55才)
中津 俊行 (39才)	田中 豪 (44才)	本田 敬一 (48食)	辻 信之 (55才)
山本 孝三 (39才)	山内 皓平 (44才)	山口 敏幸 (49食)	竹谷 健司 (55才)
浅井 建爾 (40才)	松浦 光紀 (44才)	欠畠 優 (49才)	沖 昇平 (55食)
有岡 正浩 (40才)	田中 稔久 (44食)	山内 繁樹 (49才)	竹山 寛 (56食)
遠藤 卓 (40才)	岸本 雅敏 (44化)	高津 敏 (49才)	零石 雅美 (56才)
長土居 聰 (40才)	福永 純治 (44食)	川合 昭夫 (49才)	大西 信幸 (56才)
本間 豊明 (40才)	高野 幸枝 (44化)	高橋 広夫 (49才)	石井 良夫 (56才)
武部 忠司 (40才)	横山 好子 (44化)	武内 良雄 (49才)	竹島 博 (56化)
竹内 忠一 (40才)	児島 修治 (44才)	佐々木俊雄 (49才)	津坂 透 (57化)
高田 瞳巳 (40才)	笠原 武彦 (45化)	根本 雄二 (49才)	中島 和彦 (57化)
番匠 義紘 (40才)	佐藤 稔 (45化)	高橋は太郎 (50食)	細海 伸仁 (57食)
広井 修 (40才)	小林 敏規 (45才)	齊藤 誠一 (50才)	長崎 秀人 (57才)
中尾 繁 (40才)	坂下 功 (45才)	上田 宏 (50才)	宮本 篤郎 (57才)
猪上 徳雄 (41食)	加藤 正幸 (45才)	金子 実 (50才)	幡宮 輝雄 (57才)
上鳥 保幸 (41才)	落合 忠夫 (45才)	望月 栄樹 (50才)	加賀谷純一 (58化)
石垣 泰子 (41才)	天間 昭伸 (45才)	石崎 純 (50才)	山下 晃誉 (58食)
大西 勝弘 (41才)	村井 茂 (45才)	佐藤 正三 (50才)	池田 正之 (59化)
坂本 正勝 (41才)	柳平 寛幸 (45才)	浜谷 一郎 (51化)	遠山 剛正 (59化)
中尾 閑 (42才)	今田 和史 (45才)	松本 邦彦 (51食)	吉岡 寛学 (59才)
山岸義三郎 (42才)	日置 敏幸 (45才)	榎原 滋郎 (52食)	馬場 賢一 (59才)
斎藤 弘 (42才)	横山 浩一 (45才)	宮西 勝広 (52食)	平田 芳雄 (59食)
山本 勝子 (42才)	大塚 順一 (45才)	眞鍋 康利 (52才)	久保 貴裕 (60化)
竹内 健二 (42才)	長岡 正彦 (46化)	福島 久雄 (52才)	岸村 栄毅 (60化)

工藤 寛 (60食)	生田 泰 (平元ギ)
大沢郁志郎 (60ギ)	柳原 雄三 (平2ギ)
河内山 勉 (60ギ)	渡辺 英来 (平2ゾ)
小山内雄彦 (60ギ)	山田 栄志 (平2ゾ)
佐藤 伸治 (60ゾ)	堀越 有希 (平2食)
飯田 哲也 (60食)	中島 一也 (平3食)
須藤 俊治 (61食)	澤田 和明 (平3食)
山口 修司 (61ゾ)	佐々木 剛 (平4ゾ)
柴沼成一郎 (61ギ)	伊藤 智英 (平5ゾ)
渡辺 準 (61)	松倉 利昭 (平5ギ)
池田 純二 (62化)	片桐 貴之 (平6ギ)
松尾 直人 (62ギ)	吉田 徹 (平7ゾ)
安田 昌樹 (62ギ)	佐々木徹也 (平8食)
山口 重幸 (62ギ)	菊池 格 (平9ギ)
高橋 広樹 (62ギ)	水上 智裕 (平12海)
鈴木 熱 (63ギ)	工藤 将洋 (平13資)
中村 善幸 (63ギ)	毛利 聰里 (平14資)
酒井 昌昭 (平元化)	秋田 真澄 (平14生)
丸山 英男 (平元化)	小野 英博 (平14)
江湖 正育 (平元食)	中川恵美子 (平15生)
久保 昌男 (平元食)	山本 雄三 (平15生)
敦賀 一郎 (平元食)	森西 史 (平16予定)

北水同窓会定期総会式次第

1. 開会の辞

庶務部 齊藤 誠一 (昭50ギ)

2. 会長挨拶

会長 石瀬 和正 (昭22工)

3. 議長選出

4. 議案第1号

平成14年度事業経過報告および会計決算報告

(1) 一般経過報告

幹事長 中尾 繁 (昭40ゾ)

(2) 庶務部報告 (資料1)

庶務部 齊藤 誠一 (昭50ギ)

(3) 編集部報告 (資料2)

編集部 岸村 栄毅 (昭60化)

(4) 組織部報告 (資料3)

組織部 丸山 英男 (平元化)

(5) 会計部報告 (資料4)

会計部 高橋是太郎 (昭50食)

(7) 会計監査報告

監事 西田 清義 (昭38セ)

5. 議案第2号

(1) 第84回 (平成15年度) 定期総会開催地 (東京) について

幹事長 中尾 繁 (昭40ゾ)

(2) 平成15年度役員改選案 (資料5)

庶務部 齊藤 誠一 (昭50ギ)

(3) 平成15年度予算案

1. 会計部予算案 (資料6)

会計部 高橋是太郎 (昭50食)

2. 編集部予算案 (資料7)

編集部 岸村 栄毅 (昭60化)

3. 組織部予算案 (資料8)

組織部 丸山 英男 (平元化)

6. その他

(1) 大学院重点化以降の大学をめぐる状況

名誉会長 山内 皓平 (昭44ゾ)

(2) 水産学部創立100周年記念事業計画案

本部理事 猪上 徳雄 (昭41セ)

7. 閉会の辞

庶務部 齊藤 誠一 (昭50ギ)

庶務部報告 (資料1)

1) 新入会員数

水産海洋科学科 44名

海洋生産システム学科 52名

海洋生物生産科学科 62名

海洋生物資源化学科 58名

大学院 (他大学、他学部出身者) 26名

合計 242名

2) 本年度物故者

(3月15日現在)

正会員 61名

合計 61名

3) 会員現在数

(3月15日現在)

正会員総数	12,185名
特別会員数	62名
物故会員数	2,130名
準会員現在数	22名
正会員現在数	10,055名
名誉会員数	4名
賛助会員数	5名
合 計	10,148名

4) 新入会員を含めた正会員現在数

(3月15日現在)

合 計	10,390名
-----	---------

編集部報告 (親潮発行) (資料2)

号 数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
278	H14. 7. 3	29	8,200	567,000	
279	H14.12.25	21	8,200	504,000	
280	H15. 3.18	27	8,200	588,000	
合 計		77	24,600	1,659,000	

注) 印刷費には振替用紙代、消費税を含む。

組織部報告 (会計名簿) (資料3)

項 目		予 算 額	決 算 額	摘 要
収 入	前年度繰越金	642,030	642,030	
	一般会計より繰入	700,000	700,000	名簿積立金
	広 告 料	50,000	50,000	未収分完了
	預 金 利 息		7	
合 計		1,392,030	1,392,037	
支 出	振込手数料等	1,000	120	
	次年度繰越金	1,391,030	1,391,917	
	合 計	1,392,030	1,392,037	

(繰越金の内訳 郵便貯金 1,392,037)

物故者名簿 (3月15日現在)

氏 名	期	氏 名	期
須田 俊雄 (昭6ヨ)		広瀬 晨樹 (昭23ゾ)	
小田悌二郎 (昭7セ)		坂爪 忠男 (昭24ギ)	
笛野 太郎 (昭8ヨ)		苦米地慶一 (昭24セ)	
近江 彦栄 (昭9ヨ)		白崎 辰也 (昭24セ)	
田中礼三郎 (昭9ヨ)		辻 修 (昭24セ)	
小野寺 弘 (昭11ヨ)		平尾 和男 (昭24セ)	
山平喜一郎 (昭11ヨ)		森 泰 (昭24セ)	
福島 誠 (昭11セ)		柏 麒一 (昭24教セ)	
中村 勉 (昭15ギ)		菅原国次郎 (昭25ギ)	
高橋 久弥 (昭16ヨ)		山本 昭一 (昭25ギ)	
中内 義雄 (昭16ヨ)		中沢 三武 (昭25セ)	
三浦 健一 (昭16ヨ)		皆川 泉二 (昭25セ)	
藤沢 幸雄 (昭16後ギ)		阿部 宣夫 (昭25教セ)	
小野寺清一 (昭16セ)		喜井 和夫 (昭26ゾ)	
富永 叶男 (昭16セ)		水口 勝 (昭26ゾ)	
安西 利臣 (昭17ヨ)		武藤 祐成 (昭29セ)	
徳永 信男 (昭17ギ)		堀田不二夫 (昭29ゾ)	
嶋田 房一 (昭17セ)		平田 八郎 (昭30ゾ)	
阿部 幸郎 (昭19セ)		加納 隼人 (昭32エ)	
上村 一雄 (昭19ゾ)		田中 富太 (昭33ゾ)	
武佐 寛 (昭20ギ)		太田 亨 (昭34セ)	
小野寺英也 (昭20セ)		小野寺隆夫 (昭35セ)	
安武 芳明 (昭20ゾ)		吉田 卓爾 (昭37ギ)	
向高 祥勝 (昭22ギ)		石原 純夫 (昭38セ)	
佐々木照雄 (昭23ギ)		剣崎比出雄 (昭39セ)	
高橋 全 (昭23エ)		林 昭八 (昭43化)	
豊川 育 (昭23エ)		野崎 義行 (昭44化)	
中平 日夫 (昭23エ)		大庭 邦昭 (昭47食)	
飯村 和夫 (昭23セ)		出羽 賢共 (昭61ギ)	
稻川 守 (昭23セ)		大場 伸一 (平元ギ)	
谷口 定利 (昭23ゾ)			

会計部報告（資料4）

1) 平成14年度一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	2,918,363	2,918,363	
	会費	10,000,000	8,672,000	2,168名
	親潮広告料	300,000	490,000	
	雑収入	100,000	411,164	*脚注1
合 計		13,318,363	12,491,527	
支出	親潮印刷費	1,800,000	1,659,000	
	通信・運搬費	3,000,000	1,662,696	親潮発送費 (3回分)含む
	総会旅費	360,000	360,000	
	備品費	50,000	0	
	消耗品	500,000	217,128	
	会議費	100,000	50,000	
	振替手数料	150,000	102,765	
	事務嘱託費	2,060,000	2,051,248	
	組織強化費	1,150,000	632,006	
	備人費	200,000	170,000	
支出	雑費	30,000	29,841	
	名簿会計へ	700,000	700,000	
	OA機器整備費(積立)	100,000	100,000	
	予備費	3,118,363	795,764	*脚注2
次年度繰越金			3,961,079	
合 計		13,318,363	12,491,527	

収支差引額（平成15年度に繰越）3,961,079円
(繰越金の内訳 郵便貯金 3,513,429円、銀行預金 357,916円、現金 89,734円)

*脚注1：故飯田一氏（昭16セ）（平成13年9月4日逝去）の一周年を迎え、ご子息より父の意志による30万円の寄付がありました。

*脚注2：ホームページ用PC購入金295,764円及び100周年準備金500,000円

2) 平成14年度OA機器整備費（積立）決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	214,849	214,849	
	一般会計より	100,000	100,000	
	定額貯金解約利子		2,420	
合 計		314,849	317,269	
支出	パソコン整備		263,004	本体、カーライ液晶ディスプレイ追加ソフト
	次年度繰越金	314,849	54,265	
	合 計	314,849	317,269	

(繰越金の内訳 現金 54,265円)

3) 平成14年度特別会計決算報告

	項目	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	20,160,330	
	定期預金(マリンバンク)利子	19,819	
	郵便普通貯金利子	17	
合 計		20,180,166	
支出	次年度繰越金	20,180,166	
	合 計	20,180,166	

4) 平成14年度特別会計資産内容（平成15年3月15日現在）

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金1口	9,301,000	
郵便普通貯金	89,326	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	10,789,840	
合 計	20,180,166	

会計監査報告

北水同窓会の平成14年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

- 監査対象期間　自 平成14年3月16日
至 平成15年3月15日
- 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
- 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

平成15年3月24日 監事 小祝良介㊞
監事 西田清義㊞

平成15年度役員改選案（資料5）

[○は新任]

会長

石瀬和正（昭22工）

名誉会長

山内皓平（〃44ゾ）

副会長

青 正 輔（〃22セ）

木村喬久（〃23教セ）

○前田辰昭（〃26工）

横山清（〃35工）

相談役

遠藤信二（〃13ヨ）

宮原九一（〃14ギ）

中部長次郎（〃17ギ）

代表理事

○西田清義（〃38セ）

学内理事

天下井清（昭39工） 米田国三郎（昭40工）

中尾繁（〃40ゾ） 見上隆克（〃41ギ）

猪上徳雄（〃41セ） 関伸夫（〃42修化）

山本勝太郎（〃42ギ） 清水幹博（〃42ゾ）

田島研一（〃43食） 仲谷一宏（〃43ゾ）

池田勉（〃43ゾ） 廣吉勝治（〃44ギ）

高橋豊美（〃44工） 志賀直信（〃44ゾ）

三浦汀介（〃45ギ） 築田満（〃45化）

後藤晃（〃45ゾ） 原彰彦（〃46ゾ）

目黒敏美（〃47ギ） 吉水守（〃47食）

桜井泰憲（〃48ゾ） 今野久仁彦（〃49食）

山口秀一（〃49ギ） 高橋是太郎（〃50食）

板橋豊（〃50化） 上田宏（〃50ゾ）

齊藤誠一（〃50ギ） 門谷茂（〃50化）

○飯田浩二（〃51ギ） ○平石智徳（〃51ギ）

○荒井克俊（〃51ゾ） ○矢部衛（〃51ゾ）

監事

小祝良介（昭36工） ○林 賢治（昭39セ）

学外理事

大石圭一（昭19セ） 鈴木恒由（昭20工）

西山作蔵（〃22ギ） 斎藤昭二（〃23工）

森武彦（〃23セ） 小川裕章（〃23ゾ）

船矢昭三（〃23ゾ） 鹿角幹夫（〃24工）

長澤正徳（昭24セ）	高野洋蔵（昭24セ）
増田紀義（〃25工）	佐々木建（〃25教ゾ）
木村順治（〃26ギ）	橋本幸二郎（〃26ギ）
山内彬一（〃26ギ）	穴澤邦雄（〃26セ）
大上博司（〃26セ）	中道克夫（〃26ゾ）
五十嵐脩藏（〃28ギ）	佐野典達（〃28工）
工藤駿一（〃28セ）	中村哲也（〃28セ）
名取喜昭（〃28セ）	寺地潔（〃28ゾ）
伊藤一（〃29ギ）	太田雄一（〃29ギ）
坂本有隣（〃29工）	池田昌一郎（〃29セ）
岡川伸（〃29セ）	大島栄一（〃30工）
富田幸二（〃30セ）	服部保次郎（〃31工）
箕田嵩（〃31ゾ）	羽田野六男（〃31セ）
朝岡辰夫（〃32工）	高野和則（〃32ゾ）
山崎文雄（〃33ゾ）	島崎健二（〃33工）
川島清明（〃33工）	高島優（〃33工）
菊地英樹（〃34工）	米田義昭（〃34セ）
○齊藤勝男（〃34ゾ）	高間浩蔵（〃35セ）
山本弘敏（〃35ゾ）	斎藤毅（〃36ギ）
梨本勝昭（〃36ギ）	大割了（〃37ギ）
繪面良男（〃37セ）	古井恒弘（〃37ゾ）
麦谷泰雄（〃37ゾ）	安間元（〃38工）
小泉恭三（〃38セ）	吉川正彦（〃39食）
西村紀夫（〃39セ）	○菅野泰次（〃39ゾ）
○小越征夫（〃40工）	木村昇（〃40セ）
上平幸好（〃41ゾ）	岸本富男（〃42ギ）
眞木序夫（〃42工）	藏多一哉（〃43化）
○小城春雄（〃44ゾ）	工藤昭彦（〃44ゾ）
伊藤悦郎（〃45ギ）	三佐川稔（〃45ギ）
坂下功（〃45ギ）	今井信幸（〃47ギ）
赤沢和範（〃47ギ）	中林重雄（〃47ギ）
近江政斗（〃47食）	陸田彰（〃47化）
中昭成（〃47ゾ）	黒瀬道則（〃47ゾ）
土谷俊一（〃48ギ）	吉田悟郎（〃48ギ）
坂本幸造（〃48食）	吉田正人（〃48ゾ）
佐々木俊雄（〃49ゾ）	二瓶幹雄（〃50食）
上戸慶一（〃50化）	○末岡順（〃51ギ）
○中尾博己（〃51ギ）	○増田宣泰（〃51化）
学外幹事	
長谷川栄治（昭52食）	上野孝雄（昭53ギ）
上野久仁夫（〃53化）	備前悟（〃53化）

松井 良樹 (昭54ギ)	宮岡 秀昌 (昭55ゾ)	(館山)	安 田 健 治 (〃56食)
広崎 淳一 (〃55ギ)	正木 悅郎 (〃55ギ)	(銚子)	山 口 隆 夫 (〃53化)
種田 貴司 (〃56食)	高 日出人 (〃56ゾ)	(千葉)	小 泉 守 (〃32セ)
勝田 公美 (〃57ギ)	小林 満美 (〃57金)	(東京)	未定
小林 良一 (〃57食)	嶋田 隆司 (〃57化)	(東京)	鈴 木 賢 一 (〃36セ)
阿部 純也 (〃58ギ)	桐山 智 (〃58ギ)	(東京)	菊 本 肇 (〃40ギ)
○横山 信一 (〃58ギ)	佐藤 直孝 (〃58食)	(神奈川)	○金 澤 時 夫 (〃49食)
宮園 章 (〃58ゾ)	小野 浩 (〃59食)	(三崎)	本 田 光 一 (〃23エ)
地方理事		(静岡)	沖 忠 良 (〃34ゾ)
(稚内)	○風 無 成 一 (昭41ギ)	(長野)	小野里 坦 (〃37ゾ)
(留萌・増毛)	吉 田 俊 一 (〃23ゾ)	(新潟)	○青 木 清 一 (〃23ギ)
(紋別)	片 岡 靖 (〃42ゾ)	(富山)	○川 崎 賢 一 (〃42セ)
(網走)	倉 健 藏 (〃24ギ)	(石川)	江 渡 唯 信 (〃22ゾ)
(根室)	望 月 英 明 (〃30セ)	(福井)	田 中 傳 四 郎 (〃24ギ)
(厚岸)	山 本 洋 一 (平2ギ)	(愛知)	○深 谷 黙 (〃36セ)
(釧路)	清 水 富士雄 (昭36エ)	(京都)	目 片 徳 治 (〃33ゾ)
(旭川)	齊 藤 隆 司 (〃46化)	(滋賀)	澤 田 宣 雄 (〃57ゾ)
(十勝)	佐 藤 裕 (〃24セ)	(三重)	堀 口 吉 重 (〃20セ)
(苦小牧)	柏 木 重 則 (〃42セ)	(大阪)	○入 江 和 彦 (〃45ギ)
(室蘭)	○小 林 政 利 (〃40ギ)	(兵庫)	吉 野 生 壮 (〃37ゾ)
(札幌)	林 和 明 (〃38ゾ)	(和歌山)	小 橋 保 智 (〃32ギ)
(札幌)	中 津 俊 行 (〃39ゾ)	(鳥取)	山 本 栄 一 (〃52ゾ)
(札幌)	○番 匠 義 絃 (〃40ゾ)	(岡山)	土 屋 和 弘 (〃35ギ)
(小樽)	中 村 正 (〃17セ)	(広島)	堀 田 敬 三 (〃35セ)
(余市)	内 藤 政 治 (〃23ギ)	(島根)	前 田 善 三 郎 (〃31セ)
(青森)	佐 藤 立 治 (〃36エ)	(関門)	佐 島 隆 治 (〃30セ)
(八戸)	田名部 政 春 (〃23ギ)	(香川)	黒 川 康 彦 (〃18ギ)
(秋田)	○佐々木 健 (〃35セ)	(愛媛)	片 岡 光 一 (〃22セ)
(村山)	西 長 秀 雄 (〃25ゾ)	(徳島)	小 黒 美 樹 (〃23セ)
(庄内)	未定	(高知)	細 木 忠 義 (〃17ヨ)
(盛岡)	井ノ口 伸 幸 (〃52ゾ)	(福岡)	石 尾 真 弥 (〃19セ)
(宮古)	倉 兼 賢 治 (〃47ギ)	(佐賀)	花 城 勝 也 (〃26ギ)
(久慈)	船 越 芳 則 (〃55食)	(長崎)	阿 部 茂 夫 (〃22ギ)
(釜石)	白木澤 孝 也 (〃25ギ)	(熊本)	村 上 一 (〃31セ)
(仙台)	渡 辺 宏 (〃39セ)	(大分)	○武 田 晴 美 (〃56ギ)
(石巻)	小 池 幾 世 (〃53ギ)	(宮崎)	山 崎 正 治 (〃24エ)
(気仙沼)	畠 山 和 穂 (〃30セ)	(鹿児島)	○松 田 恵 明 (〃41ゾ)
(福島)	蘭 田 善 一 (〃36エ)	(沖縄)	西 銘 史 則 (〃54修ギ)
(茨城)	原 田 和 民 (〃24教ゾ)		(北米地区連絡所・北米エルム会内)
(栃木)	下河原 修 (〃25セ)		真 板 洋 輔 (〃32エ)
(埼玉)	吉 川 晴 二 (〃41ゾ)		

平成15年度本部幹事

電話番号（直通）

幹事長	中尾 繁	(昭40ゾ) 40-5547
副幹事長	○志賀 直	信(〃44ゾ) 40-5542
庶務部	齊藤 誠一	(〃50ギ) 40-8843
	○木村 暢夫	(〃55ギ) 40-8847
	澤辺 智雄	(平元食) 40-5570
会計部	○原 彰彦	(昭46ゾ) 40-8878
	○西澤 豊彦	(〃59食) 40-8898
	向井 徹	(〃61ギ) 40-8853
編集部	○矢部 衛	(〃51ゾ) 40-5539
	宮澤 晴彦	(〃53ギ) 40-8834
	岸村 栄毅	(〃60化) 40-5519
組織部	○門谷 茂	(〃50化) 40-8871
	丸山 英男	(平元化) 40-8813
	○山口 篤	(〃6ゾ) 40-5543
事務局	吉田 秀美	42-3681

2) 平成15年度OA機器整備費（積立）予算案

	項 目	予 算 額	摘 要
収	前 年 度 繰 越 金	54,265	
入	一般会計より積立	100,000	
支	次 年 度 繰 越 金	154,265	
出	合 計	154,265	

3) 特別会計予算案

	項 目	予 算 額	摘 要
収	前 年 度 繰 越 金	20,180,166	
入	合 計	20,180,166	
支	次 年 度 繰 越 金	20,180,166	
出	合 計	20,180,166	

平成15年度会計部予算案（資料6）

1) 一般会計予算案

	項 目	予 算 額	摘 要
収	前 年 度 繰 越 金	3,961,079	2,500人見込み
	会 費	10,000,000	
	親潮広告料	300,000	
	雜 収 入	100,000	
合 計		14,361,079	
支	親潮印刷費	1,240,000	発行2回 親潮発送費(2回分)を含む 東京開催 総会補助40万円、本部役員会補助12万円等含む
	通信・運搬費	1,500,000	
	総会旅費	600,000	
	備品費	50,000	
	消耗品	300,000	
	会議費	50,000	
	振替手数料	150,000	
	事務嘱託費	2,060,000	
	組織強化費	1,000,000	
	傭人費	150,000	
出	雜費	30,000	@10,000円×12回
	名簿会計へ	1,300,000	
	OA機器整備費(積立)	100,000	
	ホームページ維持費	120,000	
	100周年準備金	500,000	
予 備 費		5,211,079	
合 計		14,361,079	

平成15年度編集部(親潮発行)予算案（資料7）

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
281	H15. 9 (7月末)	40~45	8,200	620,000	
282	H16. 3 (1月15日)	40~45	8,200	620,000	
合計		80~90	16,400	1,240,000	

注) 印刷費には振替用紙代、消費税を含む。

平成15年度組織部(名簿会計)予算案（資料8）

	項 目	予 算 額	摘 要
収	前 年 度 繰 越 金	1,391,917	名簿積立金
	一般会計より積立	1,300,000	
	広告料	2,000,000	
合 計		4,691,917	
支	印 刷 費	3,500,000	4,000部
	通 信 運 搬 費	300,000	
	振 込 手 数 料 等	20,000	
	予 備 費	871,917	
	合 計	4,691,917	

第83回定期大会を終えて

幹事長 中尾 繁 (40ゾ)

去る5月16日、札幌において第83回定期大会が開催されました。札幌支部の支部長横山 清(35エ)、同幹事長武内良雄(49ゾ)の両会員を始め、同支部会員のかたがたには細やかな点までお世話を頂き、おかげで滞りなく大会を終了することができました。お礼申し上げます。

大会で行った一般経過報告について、概略を述べておきます。前回函館での第82回定期大会では、今後取り組む課題として、会費納入率の低迷打開と水産学部創基100周年記念の学部行事に対して、同窓会として協力体制を組むことが上げられました。

低い会費納入率については、3月と4月に今定期大会に先立って開いた学内・学外役員会でも話題となりました。「親潮」等で呼びかけをしてきましたが、依然として芳しくありません。役員会でも、妙案はないが地道に現状を訴えていくことと、今年度は3年に1回の名簿発行の年に当り、会費納入会員にはこれが送付されることから呼びかけにも良い機会ではないか、ということが指摘されました。具体的には未納会員は忘れている場合が多いので、今年度最初の「親潮」送付の際に、未納の旨を知らせるようにしたらよい、との提言を受けました。幹事会で検討した結果、提言の主旨を実施することにいたしました。

一方、本年3月、創基100周年に関わる学部委員会が発足し、近いうちには学部当局としての具体案が検討、提示されることになっております。これを受けて同窓会としても強力な協力を考え、ワーキンググループのような体制を組んで同窓会独自の案を含めた支援を検討していきたいと思います。まとめ次第会員のみなさんに提示するつもりであります。また、第82回定期大会で100周年に当たる平成19年まで、一般会計から毎年50万円を積み立てることが採択されたが、今年はその2年目に当たります。

次に、議題として提案した、「親潮」発行を年

3回から2回にすることが諒承されました。この理由の1つは、掲載記事の投稿数が少なく、1号のページ数を確保して「親潮」としての体裁をとることが難しくなっていること、2つには、編集幹事を始め学内幹事が「親潮」編集、送付作業等に向ける時間の確保がこれも難しくなっていることがあります。1については、幹事の個人的なつながりから留学生や会員に投稿をお願いしたり、研究紹介、クラブ紹介等を検討してきました。一部は実行に移ましたが、同窓会誌に相応しいか、統一が可能か、など問題もあって従来のページ数を長期に維持することができなくなっています。2については、それぞれ幹事が教育研究、あるいは学部運営の公務が忙しく、なかなか「親潮」送付までの時間を見つけるのが難しくなってきている現状があります。

加えて、本年4月から同窓会のホームページを立ち上げたことがあります。これまで「親潮」で掲載していた連絡事項等で、できるだけリアルタイムでやる必要があるものは、これによって代替できます。

以上の理由で、本年度から「親潮」発行を年2回とすることにしました。ただ、「親潮」が同窓会活動の極めて重要な役目をもっており、同窓各位の情報源としても発行回数を減ずることに危惧を抱いておられる同窓が多いとも聞いております。2回発行を試みる中で、今後の経緯を見ながら最終的な判断をあとの定期大会に再度提案したいと考えております。

「親潮」278号でも述べましたが、同窓各位は卒業後の今なお、水産学部の歴史のひとまを形成する大きな役割を演じて下さっていると考えております。同窓会がそんな同窓各位をつなぐ組織として、可能な限り機能するように努めでいきたいと思います。スムーズな同窓会活動を保証するためにも、会費の納入を是非とも念頭に置いて下さるようにお願い致します。また、「親潮」掲載の原稿もどしどしあ送り下さい。

次回第84回定期大会は東京で開催予定です。これについては東京支部と連絡とりながら詳細を決め、「親潮」、ホームページ等でご連絡致します。

— ◇ 会員の受賞 ◇ —

山崎文雄氏 (33才) 平成14年度日本水産学会賞功績賞受賞 荒井 克俊 (51才)

本学名誉教授、山崎文雄氏は昭和33年に北大水産学部水産増殖学科を卒業し、大学院水産学研究科の修士、博士課程では淡水増殖学講座故山本喜一郎教授の指導を受けました。学術振興会奨励研究員の後、昭和38年に助手に採用され、その後、昭和49年助教授、昭和61年教授に昇任し、旧発生学遺伝学講座（現在育種生物学講座）を担当されました。平成11年、退官後は函館市文化スポーツ財団の理事長に就任され、地域社会のため活躍されています。

水産学会賞功績賞は、長年の研鑽により学術上ならびに応用上顕著な功績を挙げ、水産学会に貢献したものに授与される賞であり、大変名誉なことです。このたびの功績賞受賞は、特に魚類の生殖機能統御と育種に関する基礎から応用にわたる一連の研究成果、ならびに水産学会における評議員、理事としての貢献が高く評価されたものです。山崎文雄氏は、魚類の(1)成熟制御、(2)生殖と性の統御、(3)育種について、内分泌学、生殖生理学、発生生物学および遺伝学の視座から取り組まれ、脳下垂体摘出法の確立、サケ生殖腺刺激ホルモンの精製とバイオアッセイ、ホルモン処理による全雌集団作出、ウイルス病耐性系統の選抜等、時代の魁となる研究業績を示し、水産増養殖の発展への道筋を明らかにされてきました。さらに、豊富な海外経験と人脈から、国際舞台においても国際学会の組織委員活動や活発な学会講演を通して北大水産の名を高め、また、多くの研究者、技術者、専門家を育てるこことにより、わが国の水産学と水産業の発展に尽くされました。

学部、大学院を通じ指導を受けた者として今回の受賞をお祝いするとともに、北水同窓会会員の皆様にお知らせし、このたびの受賞の栄誉をともにお祝いするとともに喜びを分かちたいと存じま

す。

荒井克俊氏 (51才) 平成14年度日本水産学会賞進歩賞受賞 山羽 悅郎 (55才)

本年4月3日、東京水産大学で開催された平成15年度日本水産学会大会の総会において、北海道大学大学院水産科学研究科教授、荒井克俊氏は「魚類の染色体変異に関する遺伝育種学的研究」の顕著な功績により、日本水産学会進歩賞を受賞されました。

荒井克俊氏は、北水大学院在学中と北里大学水産学部勤務時代に、サケマス類の雑種における発生遺伝学的研究を行ない、その過程でいくつかの致死的雑種では染色体が脱落することを明らかにされました。また、当時確立された、染色体倍加技術を適用し、一部の致死雑種では異質三倍体化により生残性が劇的に回復することも明らかにされました。近年さらに、技術的に未成熟である第一卵割阻止による染色体倍加の問題に取り組み、同処理によりその後の胚細胞における染色体配分に異常が生じ、倍数体あるいは異数体モザイクが生じることを明らかにされています。氏は、このように染色体操作の技術体系を進めると共に、世界におけるこの分野全体の研究を総括し、「魚類のDNA（恒星社厚生閣）」の中に「染色体操作」という優れた総説を纏められております。この総説により染色体操作の全体像が俯瞰され、この分野に関わる新旧の研究者の今後の研究の発展に多大な貢献をなされています。

氏は、広島大学での勤務時代にドジョウ集団に倍数体が生息することを見出されました。以降この倍数体の生殖機構に注目され、日本各地の自然ドジョウ集団における倍数体の分布の調査と実験的な解析を進められています。その研究の中で明らかになってきたことは、野生集団の自然三倍体は、同所的に生息する二倍体が産む減数分裂を行なわないで形成された卵（非還元卵）の受精によ

り生じること、非還元卵の一部が雄の精子の遺伝子を受け入れずに発生し、遺伝的に均一なクローン集団を産み出す起源となることを明らかにされました。氏はさらにゲノム解析を行なうために、ドジョウのマイクロサテライトマーカーを開発され、これらの遺伝子マーカーを利用して、配偶子の形成過程で行なわれる雌雄親に由来する染色体の配分を詳細に明らかにしておられます。これらの成果は、現在行なわれている第二成熟分裂や初期卵割阻害による染色体倍加技術から発展し、生殖細胞形成の分子過程を遺伝的に制御することで倍数体を恒常的に得るという、染色体操作の将来像を提示していると考えられます。将来へ向けて一層の御活躍が期待されます。

**尾島孝男氏（54才）
平成14年度日本水産学会賞進歩賞受賞
西田 清義（38才）**

尾島孝男氏は、本年4月、東京水産大学で開催された日本水産学会総会において、「水産軟体動物トロポニンの構造と機能に関する研究」により平成14年度日本水産学会賞進歩賞を受賞されました。同氏は、北海道大学水産学部卒業後、大学院に進学、昭和58年に博士課程途中で水産高分子化学講座の助手になりました。その後、講師、助教授に昇任、平成12年4月からは本学大学院水産科学研究科応用生物科学講座の助教授として教育・研究に精励されています。この間、昭和59年に水産軟体動物のミオシンの研究により水産学博士の学位を取得、昭和62年には英國医学研究評議会（MRC）分子生物学研究所により6ヵ月間招聘され、ウニの蛋白質リン酸化酵素の研究に従事されました。

同氏はこれまで魚介類の筋肉構成タンパク質の構造と機能に関する基礎的・応用的研究に取組まれ、多くの優れた業績をあげられました。今回の受賞対象となったトロポニンはアクチンに結合している収縮調節タンパク質であり、軟体動物・ホ

タテガイ類から初めて単離し、それを構成している三成分の構造や機能について、生化学的方法および組換えDNA法などを駆使して詳細に研究したものです。すなわち、Caイオン結合成分であるトロポニンCは、同イオンを意外な場所にわずか1個（脊椎動物の場合は4個）しか結合できないことや、そのときの立体構造変化は特徴的であること、またトロポニンIと呼ばれる成分は、一端に大きなタンパク質塊を付けた巨大な分子であることなど、多くの特異性を見出しました。このような成分で構成されるホタテガイ類のトロポニンは、最も基本的かつ重要な調節機構をもつものと注目され、ヒトの筋疾患、特にある種の心臓病の原因究明、治療法開発などのために医薬学分野の研究グループとの共同研究が進められています。

同氏はさらに魚肉加工の見地から各種の魚肉ミオシンの一次構造解析、加熱ゲル化の機構と分子構造の関連、最近では水産無脊椎動物の多糖類分解酵素の単離や変異体作成による機能変化など多彩な研究を精力的に展開し、優れた成果をあげられており、今後、益々の活躍が期待されています。

**山下成治氏（54才）
平成14年度日本水産学会賞田内賞受賞
飯田 浩二（51才）**

日本水産学会賞田内賞は物理的観点に立って展開され、学術上ならびに応用上貢献著しい研究業績を挙げたものに年1件授与されるもので、今回、本水産科学研究科助教授、山下成治氏の受賞対象となった「漁業生産技術のシステム化に関する一連の研究」は、沿岸漁業や養殖業のように人の手による作業が必須で、完全な機械化自動化が望めない技術体系において生産効率向上を図るために方法と技術を開発した点で水産学上の意義は大きいと高く評価されたものです。受賞業績の中でも、特に労働集約型生産であるホタテガイならびにコンブ養殖業にたいして、物理学的観点から生産小

売りを規定する因子を詳細に分析し、最適な作業体系を作りうる条件をシミュレーション等の方法により解明し、養殖作業と生産の効率化の具体的方策を明らかにした研究、漁業労働の安全確保の観点からマコンブ等の作業対象の物性に即した載荷の方法を確立した研究、さらに新型揚網措置の建網、垂下式養殖施設へ応用した研究は、いずれも今後の産業への貢献が大きく期待され、さらなる発展が望まれています。なお、本学会賞の贈呈式ならびに受賞者講演は、本年4月、東京水産大学で開催された平成15年度日本水産学会大会で行われました。

以上、本分野における山下氏の益々の活躍と研究の発展を祈念して、同窓諸兄への報告と致します。

**高津哲也氏（63才）
平成14年度日本水産学会賞奨励賞受賞**

高橋 豊美（44才）

本年4月、東京水産大学において開催された日本水産学会総会において、高津哲也氏は「底生魚類仔稚魚の時空間分布と餌料環境に関する研究」で、同学会奨励賞を授与されました。

高津氏は昭和63年漁業学科漁場学講座を卒業、特設専攻科を経て大学院に進学、平成4年博士後期課程を中途退学し、同年当学部助手に採用され、現在、大学院水産科学研究科資源生産生態学講座で教育・研究に従事しています。同氏はこの間、資源量変動の大きいマダラの初期生残戦略や、マコガレイ仔魚の接岸加入過程の研究に精励されました。陸奥湾のマダラについては長期に亘るフィールド調査に基づき、従来考えられてきた摂餌開始直後の浮遊仔魚期よりも、さらに発育が進み底生生活に移行する稚魚期に年級群変動が生じやすく、餌である大型かいあし類カラヌス目やエビ・カニ類幼生の密度が高い年に生残率が高まることを明らかにし、平成11年に博士（水産学）の学位を授与されました。函館湾のマコガレイ仔魚につ

いては、表層域を避けて底層に留まることで沖合の産卵場から接岸・着底し、仔魚の輸送と生残には季節風によって生じる吹送流が重要な役割を果たすことを解明しました。また、着底前後のマコガレイ仔稚魚は捕食者である小型エビ類の接岸が遅れる低水温年に被食頻度が高いこと、さらに、着底後のマコガレイ稚魚は底生性かいあし類を主食するが、繁殖行動のために活発に動き回る雄成体を偏食するといった特異な摂餌生態についても成果を得ました。

野外における餌料密度と仔稚魚との関係を明らかにした研究は国内外を通じて稀であり、また、現在は研究対象をマガレイ、ヒラメ、ソウハチ、イカナゴなどにも拡げ、魚種によって異なる初期減耗要因や卓越年級群の発生機構の解明に鋭意取り組んでおり、今後の益々の活躍が期待されています。

**佐々木君男氏（36才）
平成14年度（社）大日本水産会水産功績者表彰**

鈴木 賢一（36才）

我々同期の佐々木君男君は、去る平成14年11月26日三会堂石垣ホールにおいて、（社）大日本水産会水産功績者として表彰されました。この賞は明治23年に第一回の表彰があり爾来2,517名が対象となっており、同窓の先輩の多くも受賞していますが、水産業界最高の栄誉とされる由緒あるものです。功績の概要は大手漁業会社において漁労海外事業に一貫して従事し、米国における合併事業の最高経営責任者として貢献。また、すり身の安定供給を通じ、練り製品業界の発展・魚食普及に寄与したことあります。同君は、昭和36年4月に製造学科卒業後、大洋漁業株式会社（現マルハ株）に入社しました。しかし、彼は同期の中で最も早く社会に出ており、卒業前の昭和35年11月第15次南氷洋捕鯨船団冷凍母船壮洋丸の処女航海にアプレンテスとして乗船、卒業式にも出席できなかったのです。入社後は一貫して漁業生産の現

場で働き、日本の遠洋漁業が縮少を余儀なくされ海外合併に活路を求めて転針する時代には、アラスカを舞台として活躍をしました。持ち前の豪毅さと活力溢れる行動力で同社のアラスカ事業拡大に貢献し、平成元年には取締役生産本部副本部長、ウェスタンアラスカフィッシュチャーリーズ会長、ウエストワードシーフーズ会長などの要職を務めました。その後、大興製函社長に転じ、平成10年には再び生産現場である広洋水産(株)社長に就任して水産都市釧路で厳しい状況にある日本の漁業生産の新しい途を求める、現在活動中であります。今後とも元気に北水同窓ここにありという活躍を期待して、ご報告を終わります。

— ◻ 寄 稿 ◻ —

3／4世紀を生きて

生田 博司 (23セ)

-肝油産業に活躍した同窓たち-

よくぞここまで老骨をさげて来るかな！と感慨一入なものがあります。一方ならぬ先輩・友人の溢れるサポートのお蔭としみじみ思うこの頃です。恩師故里館健吉教授（大15セ）から中央官庁の福島 誠先輩（11セ）にお願いして頂き食糧品貿易公団本部に昭和23年5月も半ば過ぎ着任しました。世間常識に疎い、丹波の山猿を受け入れてくれたのは、江田島出身という男に興味が湧いたからとも思われる、半世紀も以前のことです。

私は水産物、とくに粗肝臓油の国への買上げ検査に従事

GHQの管理下、飢餓対策として食料輸入に必要な外貨獲得が至上命令、当時、総輸出額は1,700億円（24年、23年は500億円）その内肝油は12億円（同2億円弱；最盛期20～30億円）に達していました。輸出の主力は農水産物でした。

国家管理貿易で肝油は輸出額1ドルを百円に換算（レートは品目別に設定、例えば寒天160、缶

詰300、蟹缶420）され主要輸出品目に位置付けられていた。メカジキ肝油（ビタミンA20～30万IU；国際単位/g含有品）2ドラム缶のFOB価格が400万円、荒利がほぼその半額。築地東水系、東京水産興行が輸出実務。お祝が、前夜、大野伴睦先生ご清遊という駒込界隈の茶屋であった。社用族の走りでしょうか。小生ら同期の月給は5千円弱の頃、当時の黄金産業らしい豊饒さ、或いは驕りがあったのでしょうか。

検査は油の性状、量目試験とビタミンAの定量、A含量は買上げ価格を決める企業の重要な関心事であるため、二十歳の若輩検査官に神田は老舗の大木五臓園の栗原専務らが浦和蕨工場に出迎えるような破格の扱いを受ける日々で、そのうち肝油業のプリンスと呼ばれ、いい気になっていました。

ビタミンAは高価でFOB価格10セント前後にプレミアムが5%付く、好況さGHQも格好の輸出産業とのお墨付き、検査資材であるエチルアルコール（酸値測定用溶媒；現実は回収して食い延ばし、カストリに化けた）、また垂涎の的のベックマン分光光電計（東京大学、東海区水研に先駆けて）が導入できた。

一基2千数百ドル、溶融シリカの吸光セル一個が小生の月給を少し上回る高価なもの。電子工学を駆使した初代大型分析機器、光学溶剤はイソプロピルアルコール、共に米国直輸入などもどしどし供給される好環境にあった。

しかし、やがて合成品が市場を抑えるに至り、30年代半ばには火消えたも同然となり、松下七郎先輩（8セ）の興した民間検定機関も経営危機に落ちた。

故谷川英一教授から私たちの翻本、インストラクションを所望はさすがと思ったが、母校に同器導入は何時になったことか。同様に関心高い医・薬・化学系大、石油化学産業等から測定依頼も多く、可能な便宜を看たものだった。

(1) 肝油業界で活躍した方々

大木製薬蕨工場に同期の近岡成男君がいたが、検査官風情をどう見ていたか？彼が新八戸工場（奈良工場？）の幹部要員となった後もウミネコの

群れをかき分けて尋ねたことがあった。八戸漁業市場近隣地域の新鋭工場であった。

本郷は理研ビタミン（矢崎千里社長）、同社工場は富士見町理研コンツェルンに発祥、その僅か7人の侍の一人の松本昭治君（同期）は人生の大半を先駆的に肝油業に奉げた幸運兒だった。研究熱心な彼に彼の発案の“ワカメチャン”は伝承食品で新発明ではないと痛ぶった（また同期の故佐藤照彦君にはワカメ J A S 策定で協力願った）ことも思い出す。

沓澤節三（24セ）君、松下先輩の所から転籍、八嶋千代視（26セ）君らも前後して入社し松本君をサポートした。当社は分子蒸留事業に参り（担当は後の曾根社長）、ファインケミカルの縁で武田製薬傘下となっている。

肝油業の元祖、赤羽荒川縁の東洋ビタミン（弓削社長、東水大？、同窓に肝油業経営者の居られた記憶はない）には同期の故石尾広道や大家智昭君がいて田中良男（14セ、のち玄洋水産）、斎藤（15セ？）両戦前派両先輩に厳しく躾られていたが（同研究所にV.A博士山下太郎氏（京大農化）のち食品分析センターもいた）、当時の生活事情の厳しさなどから間もなく転出されたのは正解だったでしょう。

後、海上自衛隊で活躍した工藤 容君（24セ）らも肝油業に参入したように求人が多かったから、この小文に拾い損ねた方々もあると思う。

北朝鮮帰りの鈴木雄二社長（日本窒素系という）率いる日本ビタミンは、政治力もあってか先進企業を追い越し長足の発展を遂げた。同期漁労の故長岡郁郎君や後輩の真壁正美君（26セ）らが北海道から三陸沿岸を縦横に走りまくるなど従事した。当時の復興資金を受けビタミンA濃縮に分子蒸留装置を導入して成功、当時花形産業である南極洋捕鯨の副産物、肝油中のキトール（VA 2量子体）を同機にかけ、ビタミンAに分離倍量近い収率をあげ、肝油1グラム中にビタミンAが百万単位になんなんとする高濃度ビタミン油の製造に道を開け、破竹の勢いを見せたが“好事多じ”の諺どおり会社そのものが商社の手に渡るうちにわかに衰微してしまった。

専門輸出商（昭和24年から民ベースへ）で肝油輸出を肝臓油興業（木本社長）に伍した、月本水産（ハワイ日系社長）に故吉田敏夫（12セ）氏、極洋ビタミン（大野社長）に故平岩一郎（22セ）氏、製造現場では葛原工業（竹内寿江社長、女性経団連会長、当時2台しかないロールスロイスに便乗し、尻の腫れた思い出あり、同社は後血液製剤を手掛ける）に八代 武（22セ）氏、林兼水産工業（作間恒生氏（東大農化）工場長）に同期の加藤康雄君（現在、音信不通は淋しい）、捕鯨母船関係、綺羅星の船団長（14年卒に多い）らは除き、日水に林幹也（22セ）氏、マルハにクワナボイラーの名技師長、同期の高野洋三君らがいました。

（2）忘れられない検査官

検査官には後参入だが19セの先輩、蛯子悦郎氏（後、北洋水産でも活躍、錢亀沢“旦那”的渾名進呈）が26セの今井 忠君を督励し、科学的検査官を目指してビタミンAの構造がA効果に差異をもたらすかの研究で学会に評価された。蛯子氏は1) ベーリング海魚粉工船に検査・分析実務を導入し、沖合直輸出を実現した立役者、2) 魚粉異物鑑定で警察庁科学警察研究所狐塚所長に教えを請う（本件は小生が40年、福島輝男君（北大水）に勧奨され里館先生、同期の故元広輝重君、元大島幸吉研究室の菅原氏、後には大蔵省関税研究所出来三郎所長の知恵を借り、魚粉異物鑑定法として体系化した）、3) また対ドイツ向け魚粉輸出にサルモネラフリー証明を出すべく、浜崎利一博士（腸内細菌分類の国際的権威、O-157事件での令名を記憶される向きもある）にご指導願って、いち早く検査体制を確立、後に畜産局からマニュアルを所望されるなどの先覚的事業を行った方である。蛯子氏を惜愛の念もだし難く、遅ればせながらここに贊辞を呈す（同氏は故秋場教授や、九大の石尾教授ら俊優を生んだクラスと同期）。

今井 忠君（26セ）は書くまでもないが、水産庁の筆頭遠洋課長を辞めるとき丹羽和英（24ギ）君の場合と同様に、魚臭のする人がいなくなると惜別された。マルハ役員を経て現在、国際人とし

て休まる席もないのは同情止まない。

また快活、世話好きの故鴨脚秀男（22セ、鴨脚七郎氏 明44ゾ子息）氏、また横山登志丸（明43ギ、第1期）氏、子息浩氏（東大水）も何かのご縁でしょう。

桜井 齊君（26セ）美唄から上京、のち本省経済局に移り、縁あって日清食品の幹部役員となり、元広輝重教授らに頼まれ後輩の面倒を良く見た。後、メクト製薬を任され、免疫増強剤開発に取り組んだのは、昔取った杵柄ともいうものか。20年初頭のアルギン酸、カツオからインスリンに始まったこの水産化学分野、折角の・・業半ばの退任は惜しいことであった。

戦後肝油業の遺産

ビジュアルな残映は見られないが、いくた同窓の青春を吸い込んだものか。その水産化学技術の息吹は、それぞれ戦後、爆發的に産業拡大したハム、勃興した即席めん業（水産技術者を大量に採用）に直接的に貢献したに止まらないし、またこの近代技術で育った幾多の俊英が社会に羽ばたいては幅広の異分野に足跡を刻んでいったことは間違いない。

戦後復興、食品・水産業の一頁を飾るものであったと評価したい。

この産業史は是非、後世に伝えられることを願っている。（財）日本水産油脂協会を松下先輩が残してくれたから、須田浩行理事長（東農工大）に、今後とも資料等の検索・保存をお願いしたい。

その後私は、故吉田直光先輩（大12セ）に誘われ、故益子四郎先輩（9セ）等とともにG H Qが創設を指示した東京輸出食料品検査所（日本橋三井3号館で呱々の声上げた）に移り、故福島先輩や同期（ゾ）の青柳義正君らがいる通商産業省農水産課や食糧庁油脂課の故松下七郎先輩ともご縁が多い役人生活を送ることになった。

監督本省には故中川三雄（9セ）、金子 茂（16セ）先輩、水産庁では同期の臼田正臣君が物資統制令に基づき、科学的検査導入の先覚、故新村大三郎（東水大）氏リードの下、説田彰一氏（22セ）と魚油、鯨油等の格付検査を行っていた。

戦後肝油産業勃興の背景

これから、それは何だったのか、研究しなおして見たい。

即席めん業界もそうだったように、肝油業界も戦中・戦後派が厳しい生存競争を戦い抜き、ブームが去り、元の鞘に収まった。

ただ、産業の巨大集約・合理化では無く“まさに兵どもの夢のあと”の様なのは淋しい限りだ。生き残ったのは、戦前派の幾つかだった。

河合製薬、富谷製薬、三生製薬など、戦前から馴染みのぬがね肝油、ハリバ肝油、肝油ドロップなどのメーカーがあった（勿論、これらも輸出に参入）。肝油業振興の技術的背景として、次の要因が考えられる。

1) 原料資源の発見：元祖、タラ肝油、V.A濃度は1万単位以下、精油方法も十分でなく油臭強く、鼻つまみ、後のドロップが目的の飲用であった。戦前は知られていなかったが、戦後、鱈・助宗タラ以外の鮫類、鮪・鰹類、カジキ、メヌケ、果ては鯨に豊富にV.Aが含有されることが分かった。

2) アルカリ消化法の開発：これらの魚肝臓組織が硬く、従前は煮取法、炒取法などシンプルな採油であったものが、アルカリにより、肝臓組織を壊し、遠心分離と湯洗いを組み合わせ採油・精油する技術の開発により、これら高濃度含有原料の有効利用が出来たのだろう。後、自家消化法も試みられた。

3) 漁民から原料が低廉に入手：また環境規制が無い時代であり、簡易な工場施設で操業できたことから、産業基礎が確立できたものと思われる。

例えば駿馬、富永（東水大）氏の創業期の工場は風呂桶様の消化層、上澄み油を汲み上げる柄杓、遠心分離機はなく大型ロートに厚手の紙製（水分も取る）濾紙のみでアッケラカン、啞然としたものだった。当時は原料次第であった。

老境の近年

1年に1論文で、自己の老化度測定することとしています。その自己主張が受け入れられるかどうかが尺度になると思っています。

近く「食品安全基本法」が制定される。小生も関わったO-157、色素中毒やカネミ油症、水俣水銀等が惹起した重篤な2次被害防止（次善）策が“科学的予見が無い”新感染症対応だけに策定が間に合わない…と落ち込んでいる。

チクロ、BHAの早期指導は、生産行政のエゴと叩かれ、私権侵害に繋がるだけに難問は多いが予防的な危機管理は、阪神大震災に見ても如何に大切か。

老兵は消え去ることが出来ない！之が云いたかったのかもしれません。

ジャジャ馬の小生に酒の飲み方まで教えて呉れた中野哲男氏（22セ）、また編入学で学生時代の縁は薄かったが、後にお会い出来た故本郷龍造、故立木金吾氏ら數々の22年卒諸先輩にも感謝の念を忘れ得無いことを付記して終りたい。

北水バドミントン部の活動

小辻 一幸（学生会員）

こんにちは、北水バドミントン部です。顧問の岸村先生から親潮に投稿させていただく機会をいただき、この場をお借りして部の紹介をさせていただきます。

今、北水バト部は30人程の部員で構成され、そのうち3分の1程度が院生で占られています。函館キャンパスに移行してからはじめた人や札幌キャンパスの体育会やサークルでやっていた人など様々なレベル層の部員がいます。活動時間は火木金土の週4回で、平日2時間、土曜日は4時間体育館で活動をしています。普段は最初の30分でアップや基礎打ちを行い、残り時間を使って主にゲームを行っています。試合が近づくと試合に向けて調整をしています。地元の函館地区や上磯地区の大会に出場をしています。去年は2部ながらクラブ対抗（団体戦）で優勝を飾り、また上磯町民

大会でダブルス1組が優勝をするなど対外試合でまずまずの成績を残しています。そして函館市内の大学や社会人との交流もあり、それらの経験を通して少しずつではありますが力をつけていっているのではないかと思います。

年間の行事として新歓コンパ、追いコン、ジンバなどの他に、この原稿を書いている時点ですが近いうちに合宿を行う予定です。初めての試みで楽しみにしています。

このように北水バド部はとても活気に満ちあふれて活動を行っています。もし時間のあるOBの方がいらしたら是非一緒に体育館で羽を打ちましょう。

体育館でおまちしています。



- ◆ 支部・会員だより ◆ -

埼玉県支部総会と懇親会報告

白井 純二（48食）

平成15年度の北水同窓会埼玉支部総会を今回は趣向を変えて、大宮西口駅近くにある小料理屋「孝」にて、2月8日（土）開催いたしました。

出席は14名でしたが、新しい方の参加がありましたので、今後さらに発展させたいと考えております。

吉川支部長（41ゾ）の挨拶で始まり、その後、最年長の藤岡 隆氏（28エ）の乾杯により懇親会へと移りました。お酒が進んだところで、皆さんの近況報告をして頂き、盛況のうちに時間となり、

記念撮影後は、「都ぞ弥生」、「逍遙歌」、「水産放浪歌」などを全員で合唱し、お開きとなりました。尚、会場につきましては吉川氏に便宜を図って頂きお礼申しあげます。次年度も2月の第2土曜日に行う予定でありますので、埼玉に在住する同窓の皆様のご参加をお待ちしております。



(写真の氏名紹介)

後列左より

白井純二（48食）白崎博一（46化）森田昭博（48食）五十嵐憲治（37工）増田清岩（32セ）小山光（29セ）高山允雄（37ギ）白崎淳一郎（46ギ）吉川晴二（41ゾ）

前列左より

市川浩次（36セ）藤岡 隆（28工）石山和秀（38ゾ）藤森達夫（32工）田頭与四彦（31セ）

清水栄一、土屋 要、宮本方正、添田 恒
(以上)

鹿児島支部懇談会

江幡 恵吾 (平8ギ)

鹿児島支部懇談会が4月25日に、鹿児島大学水産学部近くの居酒屋『魚味亭』で開催された。参加者は、田口一夫（25工）、林 征一（41セ）、松田恵明（41ゾ）、川村軍蔵（42工）、吉田賢二（45ギ）、東 剛志（53ゾ）、鶴田和弘（54ギ）、河合 溪（62ゾ）、石崎宗周（平元ギ）、江幡恵吾（平8ギ）、桑野 浩（平9ギ）の合計11名であった。鹿児島支部には、現在、約30名の会員があり、そのうちの3分の1が集まった。これまで、鹿児島大学で勤務している同窓生では集まる機会があったが、このように支部全体での懇談会は久しぶりで、初めて顔を会わせるという方も少なくなかった。松田支部長の乾杯で始まり、薩摩のいも焼酎が進むにつれて、話が盛り上がり時間の経つものもあっという間でした。最後は、田口先生のお言葉で宴を閉じました。これを機会に、鹿児島支部での活動をさらに活性化できればと思います。



前列右から

吉田、石崎、田口

後列右から

河合、松田、川村、林、東、桑野、鶴田、江幡

八絃会関東地区の集い

添田 恒 (17ヨ)

今年も例年のとおり4月29日の「みどりの日」に横浜中華街の「白楽天」で開催。出席者は8名でやや寂しい感じであったが、昼食をとり乍ら皆、元気に歓談し、時間の経つのも忘れ楽しい一時を過ごすことができました。席上、この会合は「最後の一兵」となるまで続けようと意気揚がる取り決めをし、今春から始めた仲間の情報誌「八絃」を来年も継続して発行することを決議して散会しました。当日の出席者は次のとおり。

青戸偕爾、荒井慎三、新井邦夫、島崎清康、

47期[32年卒]同期会・積丹半島 山井 喬志 (32ゾ)

我々47期生が、青雲の大志を抱いて北の大地に北大の門を叩いた1953年。TV放送が始まり、吉田ワンマン首相の「バカヤロー解散」があり、まだまだ貧しい頃で「経済大国」なんて言葉さえなかった。

『もはや戦後ではない』が、経済白書に載り流行したのが1956年、したがって時代は「まだ戦後」の余韻を、大きく引きずっていた。

あれから半世紀。日本国の大変りようは、目を見張るものがあるが、この歳月は同期生自身の上にも、大きな変化をもたらした。

就職に始まり 結婚 子育て 子の独立・結婚 孫の誕生 ビジネス第一線からのリタイア、反面親兄弟恩師親友との「悲しい永久の別れ」も、幾度となく体験してきた。不運にも、最愛の伴侶に先立たれるという、お気の毒な親友もいらっしゃる。

いつまでも若いと思っていた仲間達もまもなく全員古稀を迎える。

昭和・平成と時は移ろい21世紀北大入学50年そんな節目の2003年に、夢と希望に燃え青春を謳歌した、想い出多い「エルムの街」で一堂に集い、久闊を叙する機会を得た。「吾が青春に悔いなし」

高層ビルの密集、札幌は知らない町になりつつあった。それでも、なつかしい場所はまだ残っている。植物園、エルムの木陰をゆっくり回る。

歩く速さに合わせて、様々な昔を想い出す。

この日のために、私事を捨てて準備にご尽力された札幌の幹事諸兄に、深甚なる謝意を表したい。

併せて志半ばにして、鬼籍に入られた14人の友の御靈に、謹んで哀悼の誠を捧げる。

5/15午後、ススキノのホテルに集まったグループに、前日から島中君のホーム・コース「早来・ユニオンジャックCC」のラウンドを終えたゴルフ組が合流。

全員を乗せたバスは、藻岩山を右手にR・230を豊平川に沿って一路「ニセコ積丹小樽海岸国定

公園」の秘境神恵内村を目指した。「横堀楠生君は独り愛車を駆って、函館から現地へ直行」

バスは発車直後から、賑やかな酒宴場と化した。

途中、残雪の中山峠(836m)からの眺望に目を輝かせ、工藤君の名調子「道央・名山解説」に酔いながら、恵庭岳をはじめ空沼岳、漁岳、札幌岳、無意根山の偉容に、北の大自然を満喫。天下の名峰、羊蹄山(1898m)の雄姿に圧倒されながら、記念撮影。

やがて、スキー仲間がシーズン中幾度となく滑ったニセコアンヌプリ(1309m)に出会い、青春時代を彷彿した。

R・5に入り俱知安峠を越えて岩内へ、R・229を奇岩・絶景の海岸線に沿って北上、北海道初の「泊・原子力発電所」を通過する頃には、今まさに地平線に沈まんとする夕陽の素晴らしいに、騒がしかった車内もしばし言葉を忘れた。日本海の夕陽は、海も港も、岬に立つ人々総てを黄金色に染めぬく。

「山一族館」到着。幹事・心尽しの豪華な「海鮮夕食膳」に遠来の、関東・関西勢の長旅の疲れも吹っ飛んだ。宴は延々と深夜まで。

翌16日、ゴルフ疲れ二日酔いの体にムチ打って、西積丹・最北の神威岬の最先端まで、道なき道を走破。

バスは古平へ、再建された悲劇の舞台「豊浜トンネル」では、思わず合掌しばしの黙祷。

新装なった、余市の「北海道中央水産試験場」「宇宙記念館」を車窓から「忍路臨海実験所」に学生時代を偲び、小樽の「旧青山別邸」で昼食。

札幌着、「北水同窓会」総会まで暫時休憩。大盛会の総会終了後、2年後の「再会」を固く約した。

「再会」北大で水産を志した誰もが一様に希求するのは「ニシン」との再会である。久しぶりの札幌、郷土料理の店で幼友達から「ニシン」の群来(クキ)を聞いて胸を躍らせた。

かつて、北海道の日本海側を中心に、毎春沿岸に押し寄せ「江差の春は江戸にもない」といわれ、幾多の「ニシン御殿」を残して、我々の前から突然去った。

そのニシンが、今春久しぶりにオホーツク・常呂の海にやってきた。海藻と間違えて漁網に卵を産み付けてしまうような群れに出会ったのは、30年ぶりだと友はいう。

びっしり【カズノコ】が付いた「子持ち網」常呂へのニシンの再来は、神のいたずらか、自然の気まぐれか、北の海の生態系の復活の兆しか。時間は充分ある。

21世紀、自然も文明も再生へのスタートの好機を迎えてる。(2003・5・31)



羊蹄山の雄姿を望む大平原にて H15.5.15

前列左から

杉田哲夫、石田信正、薮口幸男、川村康司

島中貞夫、寺尾俊郎、池田正利

後列左から

今井 煉、工藤糾夫、高野和則、勝田順介

中野司郎、小橋保智、小田利勝、武藤 瑛

山井喬志、小泉 守 (敬称略)

北水二五会2003年の集い

廣崎 芳次 (25ゾ)

かつて女人禁制であった北水同窓会の名簿に初めて2人の女性会員の名がのったのは、わが二五会でした。毎年続いている会合は2003年3月5日熱海で開催。今回はお2人とも参加できませんでしたが、二五会夫人会員は前年同様多く岸本不二夫、佐々木建、小林哲夫、高杉 勉、竹澤 浩、山代昭三、吉住喜好、廣崎芳次は同伴で、そのほ

かに唐沢 康、上河睦美、三浦聰が参加しました。5日は好天に恵まれ、熱海から足をのばして河津桜を見に行った人々は、花が既に見ごろをこえているのに驚きました。しかし会が始まる前から、話に花が咲いて十分に楽しい刻を過しました。翌日は伊豆大島へ、あるいは箱根へと足をのばしましたが、夜は箱根に雪が降り積って北海道から来てふるえました。来年は十和田湖あたりで再会(できれば函館でも)することになりました。



於25会 KKR熱海にて 2003.3.6

魚紋会開催報告

坂井 英世 (26ゾ)

暑からず寒からずの好時節、5月13日(火)から二泊三日の日程で、魚紋会を日本海に浮かぶ佐渡ヶ島において開催した。13日の天気は、朝から霞のかかった空模様で、至って穏やかな日和であった。

会員たちは、個々に新潟港からの高速船ジェットフォイルに乗り、途中イルカの群れを眺めながら約1時間ほど走行して、島の玄関口、両津港に上陸した。そして、港にほど近いホテル東宝に夕刻までに集まつた。

顔ぶれは、札幌からは野坂 混児、函館からは松田清貞、中道克夫の両兄、八戸からは武田恵二兄、横浜からは武井正仁兄、それに世話役として地元新潟から坂井英世を加え、総勢6名が馳せ参じた。諸兄とは、前回の八戸開催から二年振りの再会であった。久し振りの顔合わせで、お互いの健康を喜びあう様子は、毎回のことながらこの一

刻が、同級の仲間として、深い絆を感じるものがあった。

午後6時半頃に、ホテル内の宴会場に移った。まず、中道兄（事務局）の司会で始まり、次いで松田兄（会長）から、健康で再会できたことを祝う挨拶があり、中道兄の乾杯の音頭を皮切りに懇親会に入った。会は懐かしさと楽しさで、ますます盛り上がってきたが、酒量の方は、皆年齢を考えてのことか、嗜むほどで一向に上がらなかった。一方の会話は、絶え間のない談笑を交わしながら、許容時間を忘れて一段と熱が入っていた。

話題の大分の筋は、在学中の諸兄や恩師の知られざる逸話、実社会で克服した貴重な経験、海外活動で得られた貴重な見聞、自らの努力で健康を取り戻した実績、それに旧友や恩師の生前をしのぶ話などであった。

宴会は一同ほろ酔い機嫌で、ようやく部屋へ引き上げたが、その後も残り酒を酌み交わしながら、しばし話題をつないだ。就寝したのは、大部夜更けになった頃と思われた。

14日（水）曇りで時々日差しあり。午前8時半頃、一同は迎えのジャンボタクシーに乗り込み、島内観光の周遊に向けホテルを発った。コースは島の中央域から東海岸を北上し、北端の岬を迂回して日本海側に出た。

立ち寄った観光スポットを順にあげると①現在話題の国際保護鳥トキの人工繁殖センター②承久の変で佐渡に流された順徳上皇の真野御陵③砂金山の近くで砂金採りの体験④佐渡博物館⑤映画「喜びも悲しみも幾年月」のロケ地になった弾崎灯台⑥沿岸域にそびえる巨大な一枚岩・二つ亀⑦民話「山椒太夫」や木下順二の「夕鶴」の発祥の里などを訪ねた。日なか、さわやかな潮風に吹かれながらの観光巡りは、至って快適であった。夕刻には、二日目の泊地ホテルひらねに着いた。

一同がホテルに着いて間もない頃に、札幌からの石川嘉郎兄と再会し、一同と久々の談笑を交わした。石川兄には当初当会に参加の予定であったが、日程の都合から一日ずれての再会であった。この後、石川兄を交えて7名全員による記念写真を撮った。

15日（木）朝から霧雨模様。午前8時半頃、一同は車に乗り込み、帰途両津港へとホテルをあとにした。途中の観光スポットには①波浪浸食の激しい断崖絶壁の景勝地で、過去にラジオ放送「君の名は」で知られる揚島・尖閣湾②徳川幕府三百年を支えた佐渡金山の展示場と当時取締っていた佐渡奉行所（復元）などを選び訪ねた。両津港には、午前11時半を回った頃に着いた。

昼食のあと、両津港を午後0時30分発の高速船に乗り、同1時30分に新潟港に接岸した。次いで路線バスに乗り継いで、JR新潟駅前に着いた。これをもって、当会開催にかかる全日程を無事に完結した。いよいよこれで解散となると、自然に胸の熱くなるのを覚えた。そして、またの再会を約して、お互い差し出す心のこもった握手は、格別に感じられ忘れられない。

この報告をまとめるにあたり、二泊三日の魚紋会開催の経過を振り返ってみると、「26ゾ」の絆がまさに蘇り、更に、生き生きとした人生観まで、呼び戻してくれたことに深く感謝したい。この感動は、我ひとりだけではなかったと思う。 終



佐渡相川町 ホテルひらねにて
後列左より 武井・石川・野坂・武田
前列左より 坂井・松田・中道

第22回七洋会の集い

山井 年男 (16後ギ)

平成15年5月30日に持った、第22回七洋会の集いは皐月晴れの、またとない好天に恵まれ、気分は上々でした。

幹事の気がかりはいつもの事ながら会合当日の日和のことです。それが今日は晴天も日本晴れで、皆様にお送りした写真の如く明るい顔をした会合となりました。

JR有楽町駅前のニュートーキョー8階の「高尾」という静かな料亭で、なじみの所です。人数こそじんまりした13名でしたが、会合の度数が22回、我々が七洋会と称する会合を持ってから30余年を経ました。お互の絆も段々と深くなってきていることは当然です。

懇親会の話題も通り一遍のものではなく本当に心底に触れるようなことまで内容が弾み、それに参加の奥様方の気兼ねのない生活全般にわたる話題の提供があって笑いが尽きません。

宴も進みお互いの写真の写しあい、持参のみやげ物の交換共々、楽しい雰囲気のうちに会合も終わり、また来年も元気でこの東京で会を続けようとあっさりと決まって別れました。

今回ここに集まることの出来た元気で幸わせな諸兄と言えども、皆さん宿癖の一つ二つは持つて当然の年となっています。これからも一日一日を大切にしてお互一段と長生きをしようではありますか。



今回の参加者

後列左より

桑田、金子、土屋、山井、酒寄、滝戸
前列左より

内田、山井夫人、滝戸夫人、前島夫人、上野、宮本、田中

高水ラグビー部 激闘喜楽会青森大会

川越 政行 (24エ)

6月2日・3日・4日の2泊3日の予定で、北海道組4名、内地組7名が青森に集会しました。

今回は青森の田名部兄のお世話を久し振りの語らいと乾杯の喜びを楽しみました。

参加者は石瀬夫妻、高田信、田名部、小川、森田、生田、川越、山下、高桑、岩間の11名で、三沢の小牧温泉に集合しました。

東京→八戸間は“はやて”なる新幹線が出来、約3時間と短縮され、函館→三沢間は“スーパー白鳥”で約3時間と終戦当時の昔を考えると、夢の様な速さでした。

小牧温泉に集合した私達は、広い渋沢公園内をバスで案内してもらい、その雄大な風景と共に、私達の人生で本当にカッパに出逢ったかと、思案しながら森と湖の青葉の楽園を楽しみました。

18時30分より夕食宴会となり、21時00分まで、以後23時過ぎまで部屋で2次会となりましたが、久し振りの会合ですので、飲んだり食べたりの時間よりも、シャベクリの時間の方が多く、酒も、食事も、おつまみも残していた様です。

翌日は7時朝食、高田さんは本八戸に用事があると帰られましたが、その他の私達は8時40分のシャトルバスにて、八甲田山の麓の睡蓮沼や谷地温泉へ、さわやかな新緑が車窓を彩る快晴の山中を快走、睡蓮沼の美くしい景色を眺め、谷地温泉の自慢の清水を味う事が出来ました。

昼食後いよいよ奥入瀬溪流へと向いました。途中石ヶ戸の瀬付近を20分散策しまして、未だ足腰衰えずと互に顔を見合せました。その後は又バスにて子の口に直行しましたが、快晴にめぐまれて付近の緑の葉の間を日光が差し込んで来る、運転手の話ではこんな風景が見えるのは年に何回もないとか、日頃の行いに自慢の面々領いて居りました。

た。やがて前方に十和田湖が見えて来まして、この三沢→十和田間は素晴らしい処でした。

子の口より遊覧船に乗組みまして、湖上を休屋へと湖面を快走しました。季節にもよりますが、周り一面緑の中に湖がある、これは何とも言えぬ喜びをもたらして呉れました。

15時休屋に到着、本日の宿舎は十和田湖G Hで夕食までの間、各自付近を散歩致しましたが、休屋の港の入口に乙女の像がありまして、そちらに出掛けた連中が多かった様です。

18時より夕食宴会が始まりまして、前夜の続きと20時頃まで互に話がつきない有様でしたが、今夜は趣向を変えて、カラオケ組と、飲酒組とにわかれ23時頃まで、楽しい時を過しました。

高水ラグビー部の熱と意気と団結の水産魂を、満天下に轟かさんと全国制覇を目指した、猛練習の日々は遙か遠く昔の出来事となりましたが、昨日の如く語り合う猛者連中が居る限り、又来年も元気に集合して、老いを若さに変える時間を持つ事でしょう。

翌日山下は青森空港へ、小川、森田、生田は青森駅へ、岩間は三沢空港へ、石瀬夫妻、田名部、川越、高桑は八戸駅で昼食を共にして、解散しました。今回はお世話頂いた、青森の田名部先輩に感謝致しつつ、投稿致しました。



(写真)

後列左より

田名部、川越、高桑、山下、生田、岩間

前列左より

高田、小川、石瀬、石瀬夫人、森田

齊藤教授をお迎えして 茨城県支部同窓会開催

渡辺 一夫 (47ゾ)

5月31日、茨城県支部では久し振りに同窓会を開催しました。

本県ではつくば市やその周辺に国や企業の研究機関が数多く設置されていることもあり、現在、約110名と多数の同窓がいますが、PR不足などで、同窓会への出席者が少ないのが悩みの種がありました。

そこで、今年の同窓会には母校の先生をお呼びすることを企画し、齊藤誠一教授に「最近の学内事情」と題した講演をお願いしましたところ、ご多忙の中にも拘わらず、快諾いただき実現の運びとなりました。

果たして、会員の関心は高く、最近にない程の出席者を集め、原田支部長を初め幹事一同ホッと致しました。

当日は、原田支部長のあいさつに続いて、先生の講演となり、独立行政法人化を来年度に控えての情勢やおしゃろ丸V世の建造、入試の状況等のお話をいただきました。その中で、特に、最近話題の「21世紀COEプログラム」について、我が水産学部提案課題が最終審査段階まで残っており、採択の可能性が高い、との話になったときには、会場は大いに沸き上りました。採択となれば水産としては全国で初めての快挙となり、有形無形の大きな効果が期待されることから、採択に向けての最後の頑張りに出席者一同熱いエールを送りました。

さらに、水産学部の札幌移転が無くなつたことについては、数年前の動きと方向が変わつたため、質問が相次ぎましたが、札幌、函館両キャンパス論や海に面した特長を生かしたキャンパスのあり方・学部整備の説明には妙に納得させるものを感じました。尤も、函館キャンパスと位置づけるならば、札幌から函館に移行したときに誰しも感じた格差の解消が一同共通の願いと思いました。

続いて、佐藤副支部長の乾杯により懇親会が始

まり、出席者がそれぞれの近況報告をしましたが、数年ぶりの同窓会とあって、報告したいことが多く、時間がもっと欲しいと感じた人も少なくなかったです。

また、今回は、女性会員の出席があったのも大きな収穫でした。本県支部では恐らく初めてのことでしたが、これを契機に女性会員の出席が増えることを期待しています。

最後に、別井君の前口上により水産放浪歌と都ぞ弥生を齊唱し、散会となりました。

齊藤先生には遠路、また、お忙しいところありがとうございました。



出席者前列左より

久保治良（35エ）、須能正美（28セ）、佐藤誠悦（25セ）、齊藤教授、原田和民（24教バ）、石川享市（24エ）

後列左より

山根爽一（43ゾ）、永谷桃子（平9ギ）、小松伸行（平5ゾ）、岩崎順（51ゾ）、荒井将人（平5ゾ）、渡辺一夫（47ゾ）、久保田次郎（平2ギ）、池田正（37ゾ）、高島葉二（51ゾ）、山崎耿二郎（40ゾ）、大川雅登（53ギ）、鈴木譲（35セ）、別井一栄（50ギ）（敬称略）

— ◆ 追 悼 ◆ —

海軍最後の切札特攻晴嵐の 機長 徳永信男君(17ギ)逝く

窪田 光信 (17ギ)

平成14年9月27日肺ガンのため予て入院加療中だった徳永信男君は、静かにその81歳の生涯を閉じた。

長州藩の血が流れる彼は勇猛果敢そのもので、北晨寮の統制委員長として縦横無尽に寮内を駆け巡り、下級生を震撼させるタフマンでもあった。

夏の高専水泳大会が近づくと、当時学内にプールがなかったので、勝負は専らスタートにあり、とした彼は夜、寮の廊下に自分と同室の島崎清康（17ギ）の布団全部を敷きつめプールに見立て、スタートの猛練習を繰り返した。そこで遂に勢あまり、向いの室の机の脚で額を打ち破る大怪我をしてかした。沖水出身だが水泳の心得ない島崎は、右往左往したが自己流の応急手当を施し、辛うじて大会に漕ぎついた。

当時の水泳部は内田浩一（17ギ）日野篤夫（17セ）清水栄一（17ヨ）らを擁し、そして立役者徳永の絶妙なスタートと力泳で、見事に東北・北海道水泳選手権の優勝旗をものにした。

卒業して難関の農林省に入省したが、直ちに兵科海軍予備学生に合格し、台湾の東港で基礎教育を終了した時、軍令部はミッドウェー海戦の手痛い教訓から、急遽兵科から飛行科への転科を募りに彼は欣然としてこれに参じた。そして自らすすみ海軍最後の特攻機晴嵐の機長となった。これは日本最大の潜水艦3,530Tに800キロ爆弾を積んだ特殊攻撃機晴嵐を載せパナマ運河を爆撃し、アメリカの補給能力減少を目論んだ作戦だった。

七尾湾に運河閥門模型を造り、激しい訓練が続いた。なにせ母潜イ400のカタパルト発射時に、爆弾の重量が加わるので何千ダインという圧力がかかり、失神する者がザラで、さらに海上の模様による艦の揺れにより犠牲者は増え、まさに毎日毎日が決死の訓練だった。

彼はよく耐え出撃態勢に入った時、作戦は本土決戦に備えウルシー環礁攻撃に変更した。そして彼は海軍最後の特別攻撃機晴嵐の機長として、その名を永久に遺すことになったのである。

畏友徳永信男君のご冥福をこころから祈るものであります。

**昭和22年卒38期
田中正良君の訃報について
旧制遠漁7期 菊池 良兵 (22ギ)**

田中君が亡くなつて5年になる。今頃彼の訃報について投稿する気持ちになつたのは、小生と遠漁時代の寮で1年間同室であったという理由からである。会報に唯、一行の訃報では寂しいなと思った。通常、故人についての思い出は故人と特に親しい関係にある者が寄稿するものと思っていたので、彼が亡くなつた時、職場の同窓の誰かが投稿するだろうと思っていたが記載されなかつた。その内に数年過ぎた。彼との同室は僅か1年間ではあったが、春秋に富む年代であった。誰も書かなければと、西山作蔵君に相談したら、遅れて投稿することも希ではないからと、原稿用紙を送つてきた。彼は山形県立鶴岡中学校卒、父親は国か県の水産技師であったように記憶している。小生と田中は旧制遠洋漁業科の最後の七期で、寮は訓育寮だった。同期は13名。1室2名であったがどういう経緯か彼と同室になつた。彼は人と争う性格ではなく、いつも平穏な表情であった。特に強烈な印象もないし、また、同室時代に言い争いした記憶もない。遠漁2年間の内、最初の1年間は座学、2年目は乗船実習である。当時は終戦間もない物の不足な時代であったが、北海道は食べ物については内地に比較すると豊であった。ジャガイモは五稜郭の貨物挽操車場に山積みされていた。奥地から内地に送る種芋を貨車に積み替えたためだ。積み替え作業のアルバイトに行き、夕方帰る時はリュックサックに詰めて帰つた。これは公認であった。田中のリュックは大きくて頑丈で、小生の倍くらい入り、体格のよい彼は樂々と背負つて

いた。このジャガイモは寮の食事以外の貴重な栄養源であり、これについては彼に借りがあつた。冬は時々「イカ釣り」にでかけた。これは下校後出かけ、朝方帰る。睡眠不足にはなるが、学校を休まずにできる割のよいアルバイトであつた。「イカ釣り」は小生の方が上手かつた。港に帰ると一般人が籠を下げてイカを買いにきていた。芋の借りがあるので田中の箱に応分のイカを分けてやつた。当時、一尾2円であったが、船主に半分渡すので1尾1円と計算していた。一番大漁したのは2400尾であったから、一夜で2400円という当時としては凄い売り上げ金額であった。田中も1000円以上稼いだと思う。その金は何に使つたかはっきり覚えていないが、一部でビールを沢山買い込んで、「すき焼き」を豪勢にした記憶がある。外は雪で、部屋にはストーブが真っ赤に燃えていた。二人共にパンツ一枚でビールを痛飲した。しかし時々電灯が消えるのが気にいらなかつた。電気コンロをよその部屋が使うので終始ブレーカーが落ちた。ブレーカー復旧はブレーカーが我々の部屋の入口の上にあったので、やむなく我々の仕事になつていた。そこで脚立代わりに利用したのが、廊下の隅に置いてある海馬の剥製（現在、講堂の入り口にあるのではないか）である。背が高い彼が海馬に乗るが、足が滑るので、足首を掴まえるのが小生の役目であった。2年生になり小生は大洋漁業のトロール船に実習乗船となつた。田中がどこの船に乗つたか覚えていない。一年後に実習が終わつて帰校して卒業試験を受けたが、これもバラバラであったから田中とは会うこともなく、社会人になつた。その後、名簿で彼が愛知県立三谷水産高校に勤務していることを知つた。田中と再会したのは卒業以来20年以上も過ぎた昭和50年代後半であったと思う。今回のことでの住所を調べご遺族に電話し奥様と話すことができた。彼は60歳で定年退職後、これまでの専門とは異業種の木材建築組み立ての会社に就職、熱心に勉強した結果、社長も認める立派な業績をあげたとのことであった。然し、平成8年頃、脳梗塞で倒れた。それでも、リハビリに努力し、医師からも模範的患者と高く評価され、かなり回復した。ところが、

その頃から車酔いの兆候が出始め、緊急採血診察の結果、肝臓の検査値に大きい変化が見られた。肝臓ガンの発症だった。手当の甲斐なく、平成10年6月13日鬼籍にはいった。家族は長男（通産省）次男（警察庁）のお二人。成人された孫さんもおられ、人生に過不足なく生涯を閉じたと思う。未亡人は86歳の実姉と同居され、ご健康の様子、長男、次男も安心だと喜んでいるとか。未亡人から、「葬儀の前後は忙しさに紛れて十分なお礼のご挨拶もできなかった。この記事掲載の機会をお借りして、故人葬儀にあたりお世話になった同窓の方々に、心から感謝もうしあげます」とのことであった。心からあらためて故人のご冥福を祈念する次第である。

谷口定利兄(23ゾ)の急逝を悼む

久保 達郎（16後ヨ）



昨年12月半ば谷口兄逝去の信は拙宅に入っていたが、私は当時入院中、家内も要介護の身で、詳細はやや遅れて知った。さけ・ます友の会のニュースでは表面は元気であったが、心臓に大きな手術を受けており、体調は要注意のはずであった。10月下旬、車運転中に脳出血を起し、後続の人の通報で事故にもならず入院、11月10日に亡くなった由である。

私は戦後直ぐ水産孵化場に入ったが、30歳近い身で学校の後輩は不在であった。昭和23年4月谷口兄、大久保兄、麓兄の三人の若々しい姿を研究室に受け入れた事は大きな喜びであった。私はその年の暮に母校に転出したが、仕事の立場上でその後も気安く三人に接すると言うよりも御世話になる事が少くなかった。谷口兄は本場（札幌）以外の支場への出入り、十和田湖孵化場長としての転出、さらに水産庁に移動、色々な課、係を忙しく動き、文字通り活発に仕事をし、昭和51年11月

に退職し、その後民間の大型いかつり漁業協会などにも長年勤めて色々と業績を残している。

谷口兄はどちらかと言えば童顔で声が大きく、しかも考えた事をズバズバ言う傾向（良い意味で）があり、時として意外な誤解をされた事があったと想像もする。

孵化場に入って間もなくの事、私がサケのウロコを投影機で測定している側で山本喜一郎さん（後の北大水産教授）に指示されたサケ卵標本の切断作業の時、彼は山本さんに向って「魚のウロコの発達の経過は階段状に進むものですね」と質問した。途端に山本さんから猛烈な罵声が飛んだ。山本さんにすれば自分が命じた仕事と無関係なオシャベリとの怒りの表現であったようだ。

その後昭和24年5月私の仕事の手伝いとして木村場長に、知内川のサケ稚魚のヒレ切標識作業に谷口兄に出張させて頂いた事があった。この時は谷口兄は退屈な仕事に拘らず本当に嬉しそうに作業をして頂いた。

当時私は全く気付かなかったが、谷口兄には軍歴があり、しかも陸軍の特攻隊の特別幹部候補生（海軍の予科連に似た？）現在もその戦友会があるて兄は熱心な幹事であった。茨城県鉾田町にあった飛行第45戦隊（黒川隊）で兄の葬儀には隊長他30余名が出席された由である。

谷口兄の人間性を友の会ニュースによって端的に現すなら、豪放ななかにも繊細な気配り、ユーモアで快活、誰にも好かれた人柄、嘘の言えない豪快な人柄と言えよう。

合掌

会員死亡通知

高橋 啓司（24ゾ）	平成13年12月31日 逝去
原田和民（24教ゾ）より	
高橋 俊光（63ギ）	平成14年2月20日 逝去
ご家族様より	
長谷川正文（19セ）	平成14年8月 逝去
八戸支部様より	
仲川 浩司（24ゾ）	平成14年11月22日 逝去
原田和民（24教ゾ）様より	

小田 貞雄 (23ゾ)	平成14年11月24日 逝去 小川裕章 (23ゾ) 様より
石黒 信義 (11セ)	平成14年11月25日 逝去 ご家族様より
工藤 敬司 (22ゾ)	平成15年1月6日 逝去 北浜 仁 (22ゾ) 様より
川本 忠雄 (13ギ)	平成15年1月16日 逝去 上島幸夫 (32エ) 様より
武藤 章作 (23ゾ)	平成15年2月5日 逝去 片山信一 (23ゾ) 様より
青木 幸次 (44化)	平成15年3月16日 逝去 中島 貢 (44ゾ) 様より
岩清水 畏 (22ギ)	平成15年3月26日 逝去 西山作蔵 (22ギ) 様より
所田 真吾 (24セ)	平成15年4月1日 逝去 ご家族様より
千葉 悟郎 (30セ)	平成15年4月8日 逝去 坂井美久 (30ギ) 様より
川崎 政喜 (19セ)	平成15年4月22日 逝去 森 有意 (19セ) 様より
和田 正 (19セ)	平成15年5月2日 逝去 片岡 光 (22セ) 様より
石田 芳彦 (22ギ)	平成15年5月12日 逝去 西山作蔵 (22ギ) 様より
山部 繁夫 (22セ)	平成15年5月18日 逝去 輪島昭二 (22セ) 様より
橋本 泰二 (39セ)	平成15年5月18日 逝去 ご家族様より
御子柴英五 (19ギ)	平成15年5月24日 逝去 森 有意 (19セ) 様より
竹内 昭 (11セ)	平成15年5月30日 逝去 ご家族様より
笹野 正人 (22ギ)	平成15年6月10日 逝去 西山作蔵 (22ギ) 様より
吉田 正一 (10セ)	平成15年6月11日 逝去 城所和民 (10セ) 様より
平瀬 正二 (25セ)	平成15年6月21日 逝去 大阪支部様より
中野 宏 (30セ)	平成15年6月25日 逝去 宮川芳明 (25セ) 様より

— ◇ ご 案 内 ◇ —

「海幸無限」**宮原九一 (14ギ)** 共著
アン・マクドナルド 小林 大助 (18ヨ)

宮原九一前北水同窓会会长（元全漁連会長）昭和14年漁卒、と、カナダ人作家で宮城大学、上智大学特任助教授として、日本の農村、漁村の常民文化を研究中のアン・マクドナルド女史の共著になる表記の出版を記念し、監修元の全国漁協会が中心となり、去る3月26日カナダ大使館のセレモニーホールで盛大な出版を祝う会が催された。

鈴木環境庁長官をはじめ、多くの水産関係国会議員、最近の歴代水産庁長官、全漁連、大水、農林中央金庫等の関係水産団体の代表者、北水同窓会会长、等、またカナダ大使館広報部長、女流登山家で医師の今井女史、作家のC Wニコル氏、アサヒビールの会長等、御両人の広い人脈から約400人の人々が集り、無論在京の同窓も多数出席、カナダ方式のパーティを楽しみ、日本漁業の発展に捧げて活躍中の氏の労に感謝した。

本書は三重県の漁村に生れ、志摩水産、函館高水と進み、復員後は三重県漁連を皮切りに水産一筋に生きた経験と、日本の沿岸沖合漁業の問題一つ一つの体験を、整理したものといえる。特にアン・マクドナルド女史の巧な日本語で問題の要点を整理、話の引出し役を果した絶妙のやりとりは、平易な言葉で語られ、肩のこらない対談として、水産界の方々特に北大の水産学部の諸氏に一読をおすすめしたい。

(記) 発行所

〒153-0044

東京都目黒区大橋1-3-7

大橋スカイハイツ207

株式会社清水弘文堂書房

郵便振替 00180-1-80122

定価本体価格 1,900円（税別）

**安田 徹 (37ゾ) 編
「海のUFOクラゲ 発生・生態・対策」**
志賀 直信 (44ゾ)

今年3月末に本書が出版されましたので、僭越ながら皆さまにご紹介させていただきます。

近年、世界各地のさまざまな海域でクラゲ類（櫛クラゲ類も含む）の異常発生が報告されています。昨年夏から秋に日本海から太平洋の三陸沖にかけて巨大なエチゼンクラゲが大発生し、定置網や底引き網漁業に大きな被害をもたらしたことは記憶に新しいところです。このようなクラゲ類の大量発生が顕在化してきた原因は、沿岸域の富栄養化、魚類の乱獲等による生態系構造の変化ではないかと疑われていますが、それらの因果関係はまだ不明な点がたくさんあります。また、地球温暖化と結びつけて論じられていますが、長期にわたる出現記録がない現状ではこれもしっかりと決め手となりません。いずれにしても、人間活動の増大が共通要因であることは間違いないでしょう。このような背景からわが国沿岸域におけるクラゲ類の大量発生の動向やその要因、さらにはクラゲ類の防除法について、情報交換やさまざまな取り組み（例えば、ネットワーク作りや研究集会の開催）が盛となり、クラゲ類への関心が一気に高くなりました。

クラゲ類の大量発生のメカニズムを解き明かすにはどうしても、彼らの生物学・生態学的特徴を知らねばなりません。安田 徹氏 (37ゾ) は福井県水産試験場および福井県栽培漁業センターに勤務され、約35年間にも長きにわたって若狭湾のミズクラゲの生態学的研究に取り組んでこられました。その研究成果は、研究当初の周囲の無理解によるさまざまご苦労があったにもかかわらず、実にねばり強い調査・観察にもとづくもので、同

氏の飽くなき探求心が強く感じられます。

本書は安田編となっていますが、同氏の旧著「ミズクラゲの研究」（日本水産資源保護協会、1988年；現在絶版）にその後の知見を加え、さらに上野俊士郎氏（55修増）のアンドンクラゲの発生と生態および足立文氏（江ノ島水族館）のクラゲの採集・飼育法が追加され、まさに、時を得たクラゲ読本となっています。クラゲ類の発生・生態・対策を網羅した好著として、水産・海洋研究者のみならず同窓諸兄姉に是非一読をお勧めします。

恒星社厚生閣

3,200円+消費税 (ISBN4-7699-0976-4)

- ◆ 学 内 ニ ュ ー ス ◆ -

学位取得者と論文題目

〔北海道大学博士（水産科学）H15.3.25〕

課程博士

鶴田 哲也：トミヨ属淡水型と雄物型の生殖的隔離および共存機構

福田 覚：海産紅藻スサビノリのElongation factor-1 α 遺伝子の構造解析とその遺伝子導入における発現ベクターとしての応用

岩橋 雅行：西部北太平洋におけるサンマ (*Cololabis saira*) の初期成長様式に与える経験水温の影響

上田 祐司：北海道南部周辺海域で漁獲されるマダラ *Gadus macrocephalus* の資源評価に関する研究

大西 光代：Current Variability Corresponding to the Timescales from Tidal to Inter-

- annual Periods around the Tsugaru Strait. (津軽海峡周辺海域における潮汐周期から経年変動までの時間スケールに対応する流れの変動)
- 前野 克尚：HF海洋レーダーとNOAA/AVHRRによる噴火湾内表層流の観測－沿岸親潮流入期における物理過程とそのホタテガイ幼生分布解析への応用－
- 奥西 武：生態系モデルによるオホツク海における植物プランクトン分布の時空間変動に関する研究
- 斎藤 克弥：マルチセンサリモートセンシングと海洋GISによるマイワシ漁場形成および資源変動に関する研究
- パンパン セメイ：An Application of Nighttime Satellite Images to Investigate Distribution and Movement of Pacific Saury (*Cololabis saira*) Fishing Locations in the Northwestern North Pacific during 1994-2000 (1994年～2000年における夜間可視衛星画像データを用いた北西北太平洋におけるサンマ漁場分布と移動の解明)
- 堀 正和：Food web structure and dynamics attributed to avian foraging and allochthonous input in the rocky intertidal habitat (岩礁潮間帯における鳥類、異地性資源供給と食物網構造・動態に関する研究)
- 本田 智：音響資源調査によるスケトウタラ (*Theragra chalcogramma*) 太平洋系群の若齢魚の年級豊度推定
- 吉野 博之：閉鎖循環式養殖システムに関する研究
- 李 永：STUDIES ON THE OPTIMUM DESIGN OF FISH TRAPS FOR CATCHING ARABESQUE GREENLING (*Pleurogrammus azonus*) USED IN MATSUMAE,HOKKAIDO (北海道松前町におけるホッケ籠の最適設計に関する研究)
- 飯塚 治：AFLPマークを用いたスサビノリ(紅色植物門、ウシケノリ目)の遺伝連鎖地図に関する研究
- 大坪 雅史：蛍光in situハイブリダイゼーション法を応用した環境および食品試料からの腸内細菌の迅速計数法の開発に関する研究
- 尾本 直隆：Studies on artificial propagation and sex control in sturgeon (チョウザメの人工繁殖および性統御に関する研究)
- 鈴木里加子：共役脂肪酸の天然物中での存在とその機能性並びに利用に関する研究
- 田中 礼士：Ecological studies on the bacterial community in the gut of abalone (アワビ消化管内細菌群に関する生態学的研究)
- 寺崎 将：Studies on Free Fatty Acids and Galactolipase in Red-Tide Flagellates (赤潮藻に存在する遊離脂肪酸とガラクトリパーゼに関する研究)
- 当瀬 秀和：Physiological Studies on the Carbonate Formation of Otoliths in Teleosts (硬骨魚類耳石の炭酸形成に関する生理学的研究)
- 長井 輝美：ゼブラフィッシュ *Danio rerio* の始原生殖細胞 (PGCs) の起源および分化に関する研究
- 二村 和視：マコンブ (*Laminaria japonica*)

- Areschoug) 胞子体成熟に関する研究
- 樋口 智之：スケトウダラ・ミオシンの加熱による尾部領域の構造変化と凝集機構に関する研究
- 堀田 公明：シロギスの成熟および産卵に及ぼす環境要因の影響に関する研究
- 山木 勝：アマゴ*Oncorhynchus masou ishikawai* の卵割阻止処理に伴って出現する倍数体モザイクとその特性に関する研究
- 山田 美穂：Evolutionary process and introgression of mitochondrial DNA in threespine stickleback, *Gasterosteus aculeatus*, around Japan (日本周辺におけるイトヨの進化過程とミトコンドリアDNAの遺伝子浸透)
- 吉岡 武也：スルメイカ品質の新評価法と保持技術に関する研究
- 吉田恭一郎：A Fundamental and Applied Researches on the Control of Microorganisms Using Electrolyzed Water (電解水による微生物制御に関する基礎ならびに応用研究)
- 渡邊 益美：Cadmium-induced Cellular Damage and Participation of Oxidative Stress in *Euglena gracilis*:Comparison of Cellular Response between Strains Z and SMZ as Photosynthetic Protista and Non-Photosynthetic Protozoa Model Organisms. (*Euglena gracilis* におけるカドミウム惹起細胞障害と活性酸素ストレスの関与：*E. gracilis* Z を光合成原生生物細胞モデル、*E. gracilis* SMZ を非光合成原生生物細胞モデルとしたストレス応答の比較)
- 論文博士
- 北村 真一：Molecular ecology of marine birnavirus in the Uwa Sea (宇和海におけるマリンビルナウイルスの分子生態学)
- 〔北海道大学博士（水産科学）H15.6.30〕
- 課程博士
- 佐藤 理奈：ホスファチジル基転移反応におけるホスホリパーゼDの立体選択性に関する研究
- 松原 創：ウナギ卵巣のステロイドホルモン合成機構および卵成長の人為的制御に関する研究
- 論文博士
- ナンシー キャサリン ドラ蒙ド ディビス：Feeding Ecology of Pacific Salmon (*Oncorhynchus* spp.) in the Central North Pacific Ocean and Central Bering Sea, 1991-2000 (1991-2000年の中部北太平洋および中央ベーリング海における太平洋サケ類の摂餌生態)

会員異動

(平成15年2月2日～7月1日)

定年退官

14. 3.31 菅野 泰次 環境生物資源科学専攻
(昭39ゾ) 資源生産生態学講座
15. 3.31 小城 春雄 環境生物資源科学専攻
(昭44ゾ) 資源生産生態学講座

15. 3.31 岡 重美 生命資源科学専攻 (特) 水圈食糧科学講座	学研究科から)
昇 任	
15. 4. 1 桜井 泰憲 環境生物資源科学専攻 (昭48ゾ) 資源生産生態学講座教授 (同講座助教授から)	15. 4. 1 東藤 孝 生命資源科学専攻 (平2ゾ) 生命機能学講座助教授 (新潟大学理学部から)
15. 4. 1 山羽 悅郎 環境生物資源科学専攻 (昭55ゾ) 水圈共生生態系保全学講 座(協力講座)教授 (同講座助教授から)	15. 4. 1 浦 和寛 生命資源科学専攻 (平3ゾ) 生命機能学講座助手 (新規採用)

平成14年度進路状況一覧

15. 4. 1 松石 隆 環境生物資源科学専攻 (特) 資源生産生態学講座助教 授(同講座助手から)	()は女子で内数 MC:大学院修士課程 DC:大学院博士後期課程
水産海洋科学科	
15. 5. 1 高木 省吾 水産学部附属練習船 (昭58ギ) おしょろ丸助教授 (同船講師から)	日本マタイ(株) 1名 日本ハム惣菜(株) 1名 ダイヤモンド・シティ 1名 富士電機システム(株) 1名 大日本水産会 1名 財)鯨類研究所 1名 (株)スタッフ21 1名 ホクレン農業協同組合連合会 1名 日本製紙(株) 1(1)名 北海道警察 1名 六花亭製菓(株) 1名 MC北大水産科学研究科 22(6)名 MC北大地球環境科学研究科 4(1)名 MC東京大学大学院新領域化学研究科 1名 MC京都大学大学院農学研究科 1名 MC名古屋大学大学院生命農学研究科 1(1)名 MC九州大学大学院農学研究科 1(1)名
転 任	
15. 5. 1 板倉 信明 環境生物資源科学専攻 (昭61修漁) 生産システム学講座 (独立行政法人水産大学 校へ)	海洋生産システム学科
着 任	
15. 4. 1 綿貫 豊 環境生物資源科学専攻 (特) 資源生産生態学講座助教 授(北海道大学大学院農 (3 3)	

クレードル興産(株)	1名	松屋フーズ	1 (1) 名
(株)ノースイ	1名	理研ビタミン(株)	1名
斜里第一漁協	1名	J A 北海道年厚連	1 (1) 名
(株)セントラルスポーツ	1名	岡山県庁	1名
高橋建設(株)	1名	北海道教員	1 (1) 名
大阪魚市場	1名	(株)シーキュウブソフト	1名
手稲曙保育園	1 (1) 名	丸紅飼料(株)	1名
セコム(株)	1 (1) 名	北海道水産孵化場	1名
防衛庁 海上自衛隊	3名	北大水産学部研究生	1名
北海道エアーウォーター	1名	MC 北大水産科学研究科	3 9 (1 6) 名
大阪検察庁	1名	MC 北大農学研究科	1名
北海道警察	2名	MC 東大大学院農学生命科学研究科	1名
日本食研(株)	1 (1) 名	MC 京都大学大学院農学研究科	1 (1) 名
アイ・イーグループ	1名	MC 愛媛大学農学研究科	1名
日立造船情報システム(株)	1名		
(株)全教	1 (1) 名	海洋生物資源化学科	
シオノギベトメディカ(株)	1 (1) 名	(株)竹日食品	1 (1) 名
(株)C S K	1名	(株)ミヤリサン	1 (1) 名
スタッフサービス(株)	1名	よつ葉乳業株式会社	1 (1) 名
岩見沢市役所	1 (1) 名	(株)三越	1 (1) 名
日立ソフトウェアエンジニアリング	1名	ヤンセンファーマ(株)	1 (1) 名
N E C ソフト	1名	不二製油(株)	1 (1) 名
出光興産(株)	1名	札幌信用金庫	1 (1) 名
カテナ(株)	1名	函館五稜郭病院	1 (1) 名
ジョンソンアンドジョンソン	1 (1) 名	六家亭製菓	1 (1) 名
北大水産学部研究生	1名	日糧製パン	1 (1) 名
MC 北大水産科学研究科	2 0 (2) 名	武田薬品工業(株)	1名
MC 北大地球環境科学研究科	1名	(株)竹田食品	1 (1) 名
		ドンク(株)	1名
海洋生物生産科学科		(株)菊水	1名
住友製薬(株)	1名	月島食品工業(株)	1名
新潟県庁	1 (1) 名	ヤマサ醤油(株)	1名
(株)セイコーマート	1 (1) 名	財) 日本食品分析センター	2 (2) 名
アストラゼネカ	1名	(有)フラワームニュムニュ	1名
北海道警察	1名	函館トヨペット(株)	1名

独) 産業技術総合研究所北海道センター	1名	北海道標茶町役場	1名
北海道公務員	1名	協和発酵工業(株)	1 (1) 名
MC 北大水産科学研究科	30 (12) 名	(株)ダイショウ	1名
MC 北大農学研究科	1名	(株)アルプス	1名
MC 北大地球環境科学研究科	3 (2) 名	農水省消費技術センター	1名
MC 奈良先端大学大学院バイオサイエンス	1名	日本農産工業(株)	1名
		(株)ジャパン・テクニカルソフトウェア	1名
大学院修士課程		札幌市保健福祉局	1名
五稜郭病院	1 (1) 名	(株)スギヨ	1名
(株)メンテック	1名	山口県庁	1名
アキレス(株)	1名	北海道公立高等学校	1 (1) 名
アイネス	1名	雪印乳業(株)	1名
(株)バイファ	1 (1) 名	(株)エスピック	1 (1) 名
古野電気	1 (1) 名	フタバ食品(株)	1 (1) 名
湧別漁業協同組合	1名	花王(株)	1 (1) 名
セントラル・コンピューター・サービス(株)	1名	高砂香料工業(株)	1名
アイシン精機(株)	1名	滋賀県職員	1名
公文教育研究会	1 (1) 名	(株)東洋新薬	1名
江別市役所	1名	キリンビバレッジ(株)	1名
東京久栄	1 (1) 名	青森県公務員	1名
新潟県庁	2 (2) 名	山之内製薬(株)	1名
全日本空輸(株)	1名	ネスレジャパングループ	1 (1) 名
(株)カテナ	1名	ロッテ(株)	2名
(株)ブレーン	1名	日本ハム(株)	1名
翼システム	1名	函館柏稜高校	1名
北海道水産試験場	1名	ノエビア化粧品(株)	1 (1) 名
山梨県地方上級公務員	1名	(株)微生物化学研究所	1名
日本海洋生物研究所	1名	(株)なとり	1名
J A 北海道信連	1名	財)癌研究所	1 (1) 名
(株)ニチレイ	2名	遠隔医薬研究所	1 (1) 名
(株)ナガセ	1名	財)日本食品分析センター	1 (1) 名
独) さけ・ます資源管理センター	1名	純馬油(株)	1 (1) 名
清水銀行	1名	水産庁	1 (1) 名
鈴広かまぼこ	1 (1) 名	東京サラヤ(株)	1名
(株)ファンケル	1 (1) 名	万有製薬(株)	1名

キューピー(株)	1名	資源生産生態学講座（旧資源生物学講座）
ファイザー製薬(株)	1名	5月10日（菅野泰次先生退官記念 北水資源生物
(株)ニチロ	1名	科学講座同窓会へ出席）
セメダイン(株)	1名	植田和俊（平7ギ）、北川大二（49ギ）、国廣靖
北大水産科学研究科研究生	1名	志（52ギ）、桑原禎知（平6ゾ）、佐藤 洋（54
D C 北大水産科学研究科	18（3）名	ギ）、澤田真由美（平8ギ）、清水道彦（55ギ）、
北大理学研究科研究補助	1（1）名	竹内勝巳（62博漁）、田中弘太郎（52ギ）、早狩
D C 愛媛大学農学研究科	1名	千秋（平13生）、原 猛也（52ギ）、眞野修一（平
D C 愛媛大学理工学研究科	1名	元ギ）、南浦邦子（平11生）、三宅博哉（59ギ）、
琉球大学研究補助	1名	宮本淳司（60ギ）、森田健太郎（平9ギ）、山内
		訓司（52ギ）、山北紀彦（平7ギ）

大学院博士後期課程

獨) 中央水産研究所	1名	北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所
漁業情報サービスセンター	1名	羽田幸司（平12生）2/24、大谷 哲（平9ゾ）3/10・
東大大学院農学生命科学研究科	2名	4/9・4/11・4/30・5/13、小林次郎（55ゾ）4/30、
日本海区水産研究所	1名	当瀬秀和（平10ゾ）5/1、長井輝美（平10ゾ）6/17
グローバルオーシャンデベロップメント	1名	
金沢医科大学	1（1）名	
京都大学農学部	1名	海洋環境物理学分野（旧北洋研海洋環境講座）
獨) 食品総合研究所	1名	横町暢洋（平13水産海洋）4/30
静岡県庁	1名	
愛媛県教員	1名	育種生物学講座（旧水産植物学講座）
北海道工業技術センター	1名	馬場将輔（62博ゾ）8/18、岩崎希美（平9ゾ）3/22、
水産科学研究奨励会研究員	3（1）名	佐藤康子（平8ゾ）3/24、岡本香澄（平7ゾ）
J S P S 特別研究員	1（1）名	4/25

有朋自遠方來不亦樂乎

(平成15年2月～平成15年6月)

(敬称略)

応用生物科学講座（旧水産高分子化学講座）

清水映里（平13資）5/1、竹谷裕平（平13資）5/2、
長島浩二（52化）5/22、太田智樹（61化）5/22、
森 正美（51化）6/12、田中 汎（43化）6/16

水圈食糧科学講座・食品生化学分野（旧生物化学講座）

石川大介（平13食品）3/26、木村郁夫（51食品）
4/18、藤浦道子（平9食品）5/31

資源環境科学講座（旧海洋学気象学講座）

(36)

藤森 薫（平12海）2/14、西田芳則（63漁）3/24、
山下和則（54漁）4/15、加藤博人（平14海）5/13・
6/28、奥西 武（平7化）6/30

応用生物科学講座（旧食品化学第一講座）

永田 淳（平10食）5/2

資源計測学講座・音響資源計測学分野（旧漁業測器学講座）

岡崎亜美（平11シ）4/29・6/20、安部幸樹（平7ギ）
4/28・6/11

水圈食糧科学講座・食品機能化学分野

大野隆明（平4食）5/2、小関宏明（平3食）5/6、
長谷川康介（平14資）6/13、錦織孝史（58食）6/17、
島貝 真（平3食）3/20、木村郁夫（51食）4/18、
小玉修嗣（55食）5/2、石川大介（平13資）3/26、
福田 裕（44化）3/14

生物資源化学講座・生物化学工学分野（旧化学工学講座）

谷金秀幸（平12資）5/1、山谷里美（平12資）5/9

多様性生物学講座・プランクトン分野（旧浮游生物学講座）

齊藤和敏（47ゾ）2/28、宮園 章（58ゾ）3/7、山田雄一郎（平9ゾ）3/8・6/1、帰山雅秀（48ゾ）3/22、
雜賀 修（53ゾ）4/23、関 二郎（48ゾ）5/29、
浅見大樹（60ゾ）5/31、出来祐治（平4ゾ）6/17、
青野哲大（平9ゾ）6/17

表紙写真説明

北水写真部は、白黒写真を始めとして、カラー、デジタルカメラなど幅広く活動しています。部員は現在約20名です。学部3、4年はもちろんのこと、院生も数名所属しています。主な活動として、年に数回の部全体による写真展、個人での写真展、写真コンクールへの出品、週末には景色のよい場所での撮影会があります。最近では、コンクールに入賞している部員もあり、写真技術のレベルが高くなっていることは間違ひありません。他の部活（アクアラング部、鯨類研究会など）を掛け持ちしている部員も多い中で、それぞれが日々作品制作に力を注いでおります。

今回、同窓会誌がリニューアルするということで、写真部にも声をかけていただきました。本号の表紙は、修士一年の橋爪繁幸さんの写真です。北星丸から夕日を撮りました。夕日の色がとても鮮やかで、「北水」をイメージさせるものとしてぴったりだと思い起用しました。

下の写真も部員の撮影したものです。人によって作風が全く違い、個性のある写真ばかりです。今後も写真展、コンクールへの出品を精力的に行っていきたいと考えています。是非、機会がありましたら、写真展そして我が部の活動の場であるサークル会館へお越しください。

北水写真部



《編集後記》

平成15年度の「親潮」の発行は第1号と第2号になります。第2号（通算282号）の原稿締め切りは平成16年1月15日を予定しています。会員の皆様には「親潮」に多くの原稿を寄せていただくようお願いいたします。

本年度から北水同窓会ホームページを新たに開設し、ホームページ上にも親潮を掲載する予定ですので、そちらの方もご覧下さい。

（編集幹事 岸村栄毅）



親潮投稿規定

1. 掲載文の種類と文字数などの制限

- (1) 会員の受賞：本文880字以内
- (2) 寄 稿：本文5,280字以内
なお、この制限以上の長文あるいは連載希望の寄稿文について
は3号分までとする。
- (3) 支部・会員だより：本文1,760字以内
なお、弔文については代表者一
名に限る。
- (4) ご 案 内：本文880字以内
- (5) そ の 他：掲載の可否および文字数の制限
については編集部が決定する。

発 行 平成15年8月15日
編 集 兼 中尾 繁・矢部 衛
発 行 人 岸村 栄毅・宮澤 晴彦
発 行 所 北海道大学水産学部北水同窓会
(TEL/FAX 0138-42-3981)
Eメールアドレス：hokusui@hotweb.or.jp
印 刷 所 三秀印刷 TEL.23-6663 FAX.27-5135